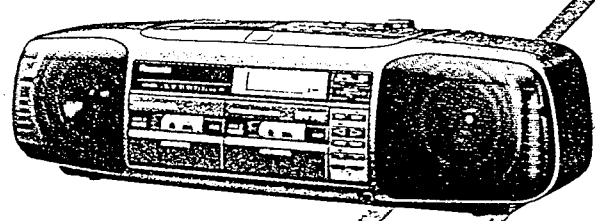
Panasonic



ポータブルステレオCDシステム

品番 RX-DT70

取扱説明書

保証書別添

目 次

電源……2
主な操作……2
各部の名称と働き……4
CDを聞く……10
ラジオ／TVサウンドを聞く……16
テープを聞く……22
録音する……25
CDから録音する……26
ラジオ／TVサウンドを録音する……30
テープ編集する……32
現在時刻を合わす……34
タイマー時刻をセットする……35
タイマー演奏(再生)や留守録音する……36
おやすみになりながら聞く(スリープ操作……38
リモコン操作をする……40
外部機器を使って……42
コンパクトディスクについて……43
カセットテープについて……44
お手入れのしかた……44
電源の注意……45
著作権について……45
安全使用のために……46
アフターサービス……46
故障!?と思う前に……47
定格……裏表紙

上手に使って上手に節電

あなたが録音したものは個人として楽しむなどのほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。

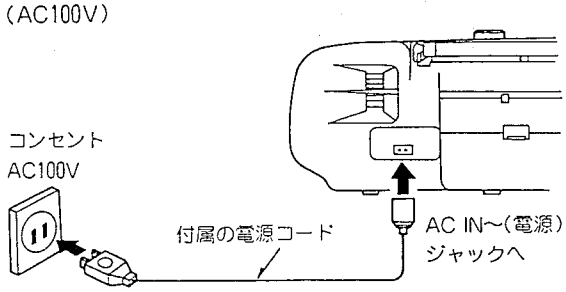
■取扱説明書と保証書は、よくお読みのうえ、大切に保管してください。
■保証書は必ず「販売店名・購入日」等の記入を確かめて、販売店からお受取りください。

電　源

家庭用電源

（付属電源コード）

（AC100V）

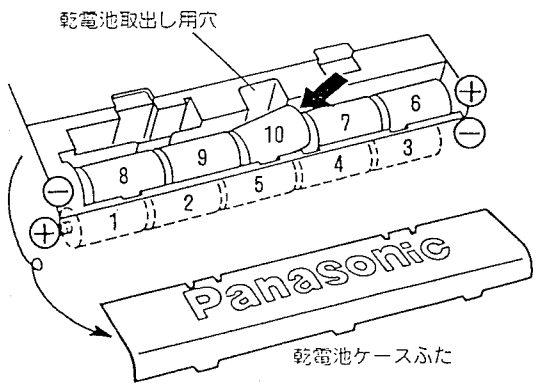


乾電池

（別売り単一形乾電池）

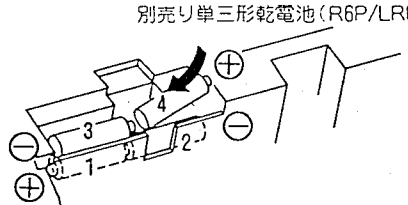
（R20P/LR20）10個

極性（⊕⊖）を間違えないように番号順に入れます。
（番号5と10は⊖側に押しつけながら入れる。）



コンピューター/クロック用乾電池

別売り単三形乾電池（R6P/LR6）4個

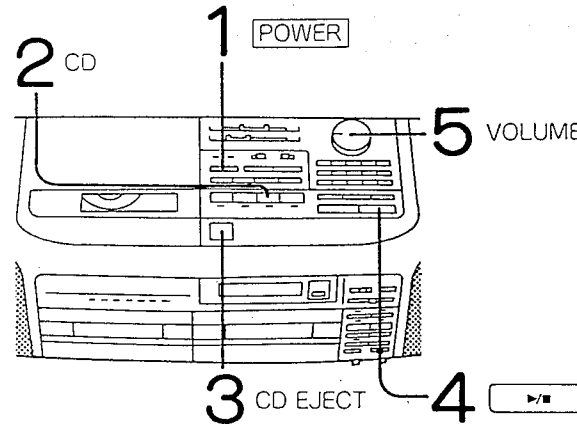


AC使用時、停電またはACコードをコンセントから抜いたとき、時計の動作、CD、チューナのプログラムメモリーを保持します。

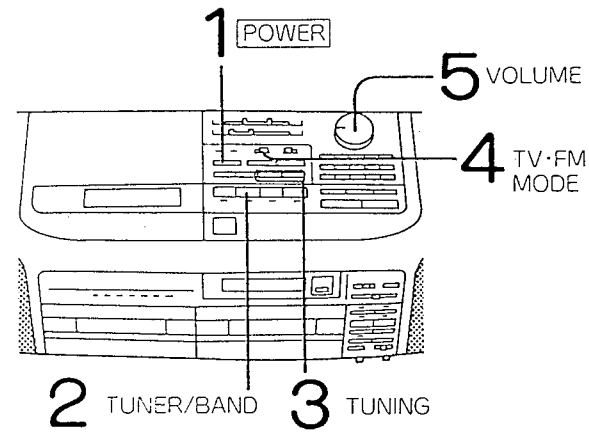
"電源の注意" P45 と "安全使用のために" P46 を必ずご覧ください。

主な操作

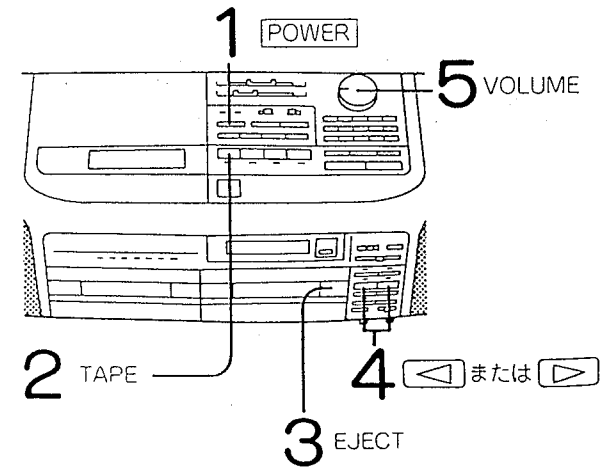
CDを聞く



ラジオ/TVサウンドを聞く



テープを聞く



CDを聴く

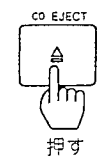
（詳しくは P10 – P15 ）

1

2

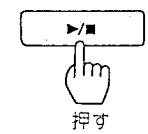
“CD”にします。

3



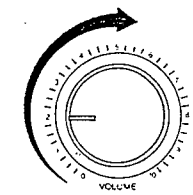
ディスクを入れます。
P10

4



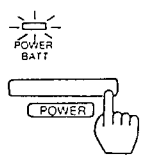
演奏が始まります。

5



音量を調整します。

ラジオを聴く



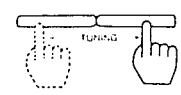
本体だけで操作をするとき（リモコンを使わないとき）は、POWER（パワー）スイッチを押さなくても、SELECTOR（セレクタ）キーを押すと、電源が入ります。

（詳しくは P16 – P21 ）

2

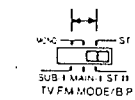
希望のバンドを選びます。

3



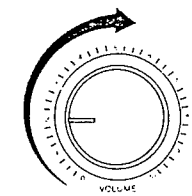
希望放送を選局します。

4



“MONO（モノラル）”または“ST（ステレオ）”にします。

5



音量を調整します。

テープを聴く

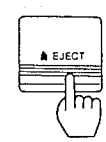
電源を切るときは、必ず、POWER（パワー）スイッチを押してください。

（詳しくは P22 – P24 ）

2

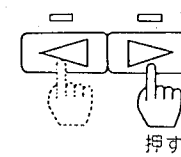
“TAPE（テープ）”にします。

3



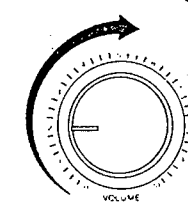
カセットを入れます。
P22

4



再生が始まります。

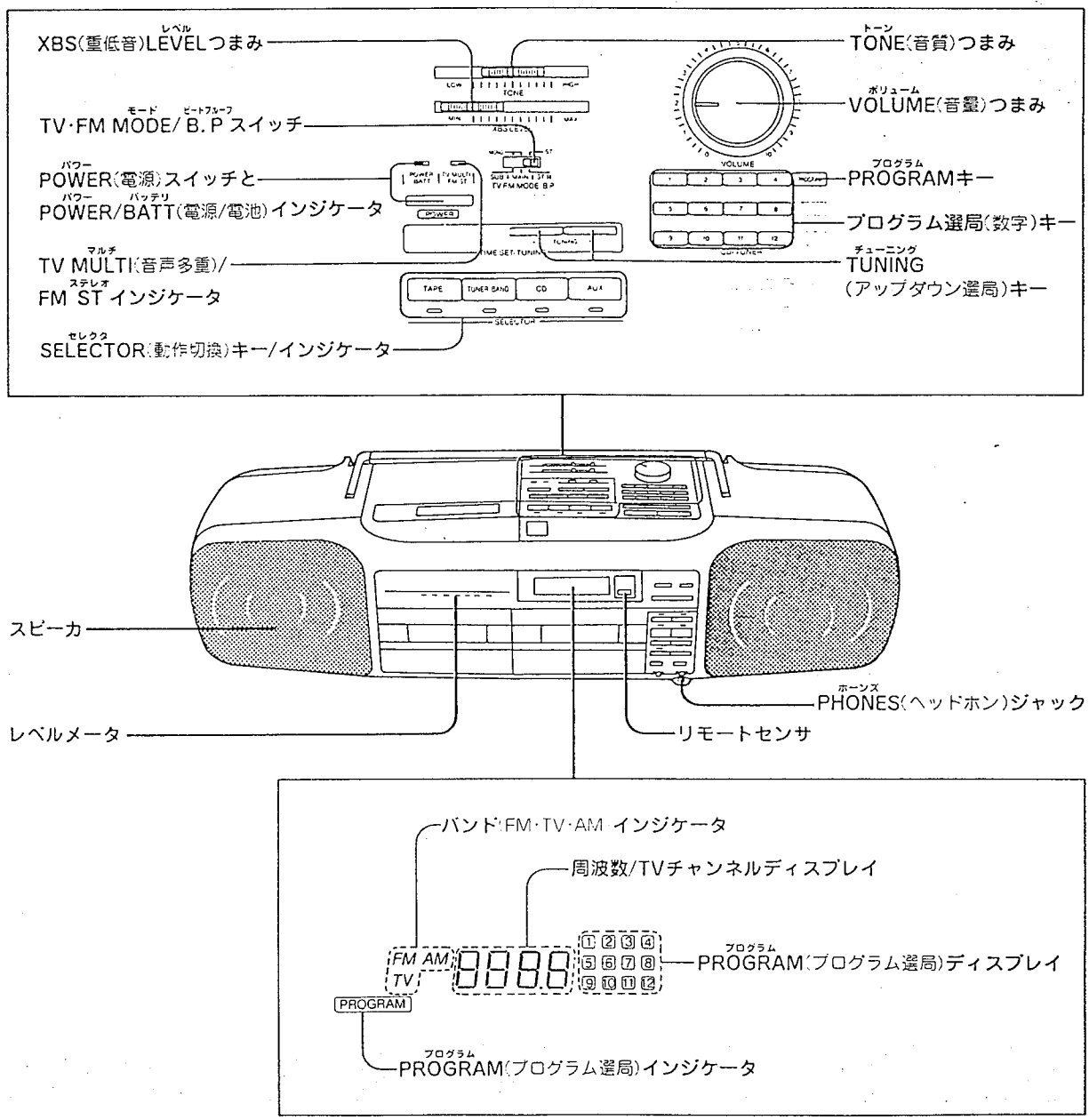
5



音量を調整します。

各部の名称と働き

チューナ部と総合部



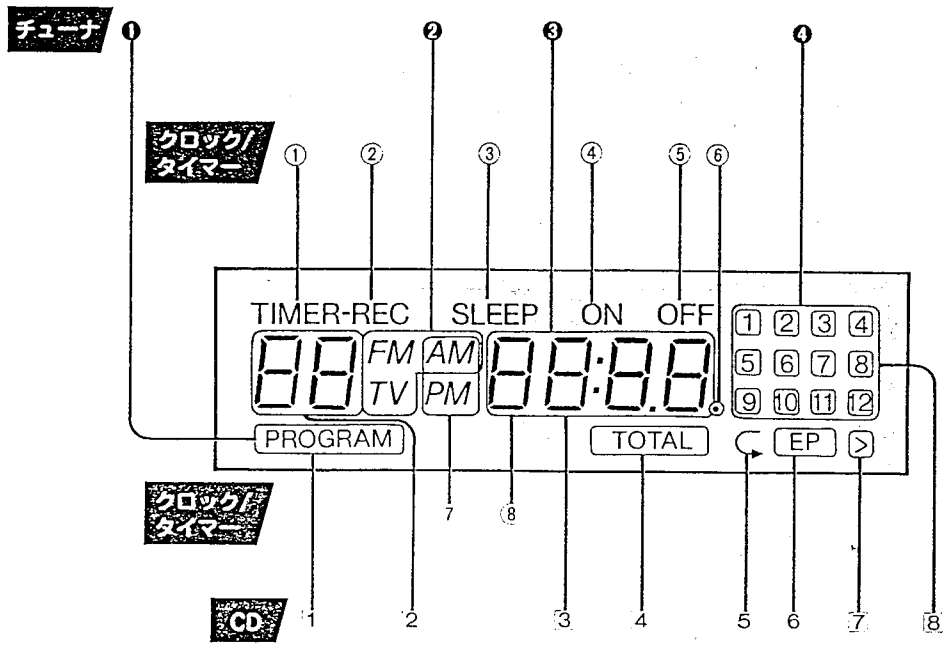
■POWER(電源)スイッチ
電源を入れるときは、直接SELECTOR(動作切換)キーで入りますが、電源を切るときは、必ずPOWER(電源)スイッチで切ってください。

■SELECTOR(動作切換)キー/インジケータ
聞きたいソース(テープ·ラジオ·CD·外部機器)を選びます。
キーを押すと電源が入り、インジケータが点灯します。
・TUNER/BANDキーはバンド(AM·FM·TV)切換スイッチを兼用しています。

■PROGRAMキー
放送局のプログラム時に押します。P18
・CDのPROGRAMキーを兼用しています。P12

■プログラム選局(数字)キー
希望放送の記憶、呼出しができます。
・CDのダイレクト選曲キーを兼用しています。

■TUNING(選局)キー
アップダウン選局時に使います。P16
・タイマーの時刻/スリープ時間調整キーを兼用しています。



チューナ

❶PROGRAM(プログラム) フログラム選局インジケータ
❷バンド:FM・TV・AM:インジケータ
❸周波数/TVチャンネルディスプレイ
❹PROGRAM(プログラム) フログラム選局ディスプレイ

CD

1 PROGRAM(プログラム) 選曲:インジケータ
2 TRACK(トラック) 曲番:ディスプレイ
3 演奏時間ディスプレイ
4 TOTAL(トータル) 合計時間 インジケータ
5 リピートインジケータ
6 E. P(エディットポーズ) インジケータ
7 多曲(13曲以上)インジケータ
8 PROGRAM(プログラム) 選曲:ディスプレイ

クロック/タイマー

①TIMER(タイマー)インジケータ
②TIMER REC(タイマー レック) タイマー録音インジケータ
③SLEEP(スリープ)インジケータ
④タイマーON(オン)(入時刻)インジケータ
⑤タイマーOFF(オフ)(切時刻)インジケータ
⑥秒インジケータ
⑦AM・PM(午前・午後)インジケータ
⑧時間ディスプレイ

メモリーのバックアップ(保持)について

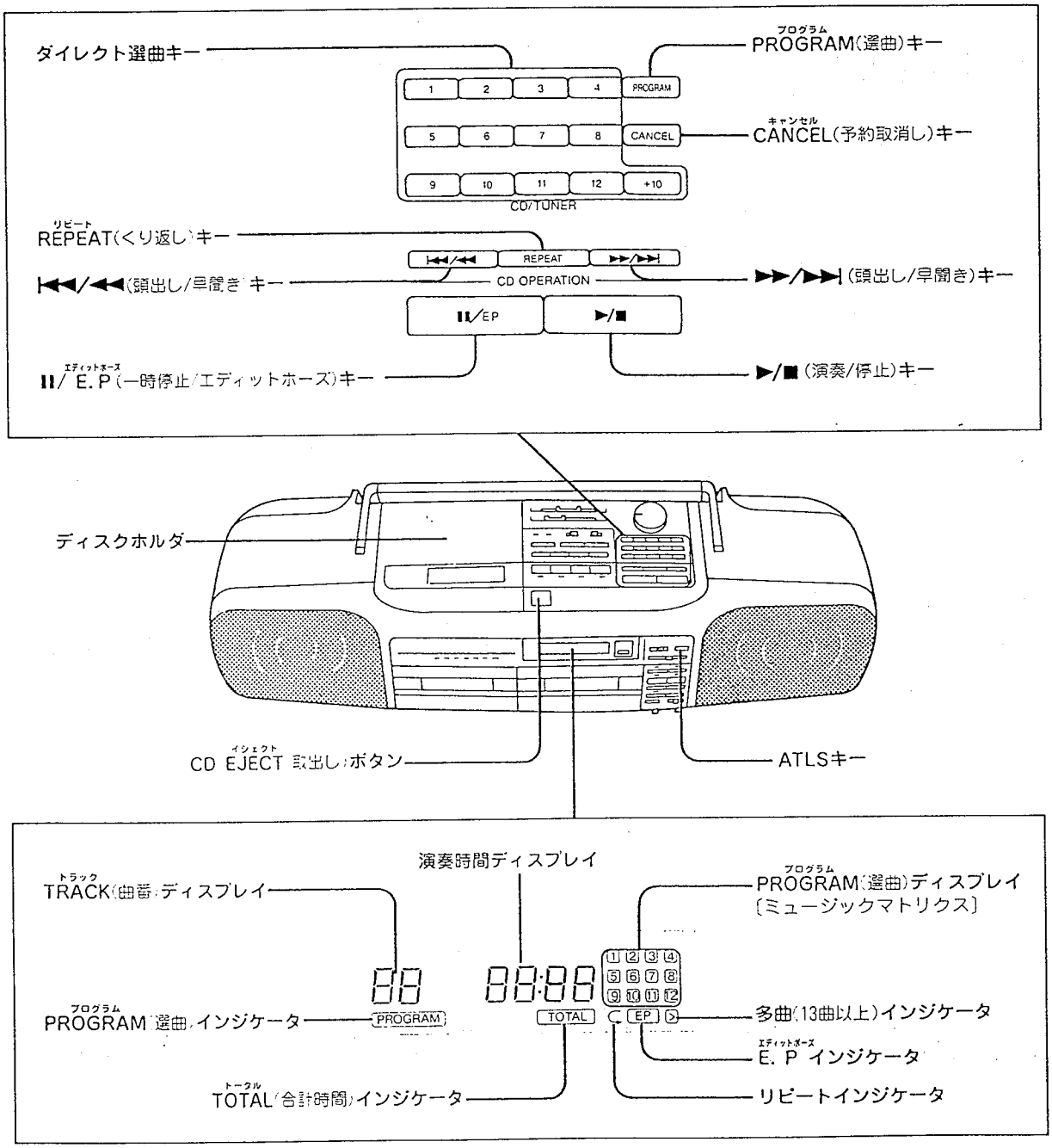
本機のチューナ、CD、クロック/タイマーのプログラムメモリーは、AC使用時はACで、乾電池（別売り単一形乾電池）使用時は乾電池で保持しています。
コンピューター/クロック用乾電池を使用していない場合、停電（AC使用時）またはつぎの操作を行なったときメモリーが消えます。このときは、もう一度メモリーしてください。

- ACで使用中、電源コードをACコンセントから抜いたとき
- 乾電池（単一形乾電池）で使用中、電源コードを本機のAC IN(イン)ジャックだけに差込んだとき

すでにメモリーされたプログラムを誤って消さないため、コンピューター/クロック用乾電池(別売り単三形4個)の使用をおすすめします。

各部の名称と働き

CD部



■II/E.P(一時停止/エディットポーズ)キー

CD演奏中に押すと一時停止キーとして働きます。

・プログラム選曲時はエディットポーズキーとして働きます。 P 28

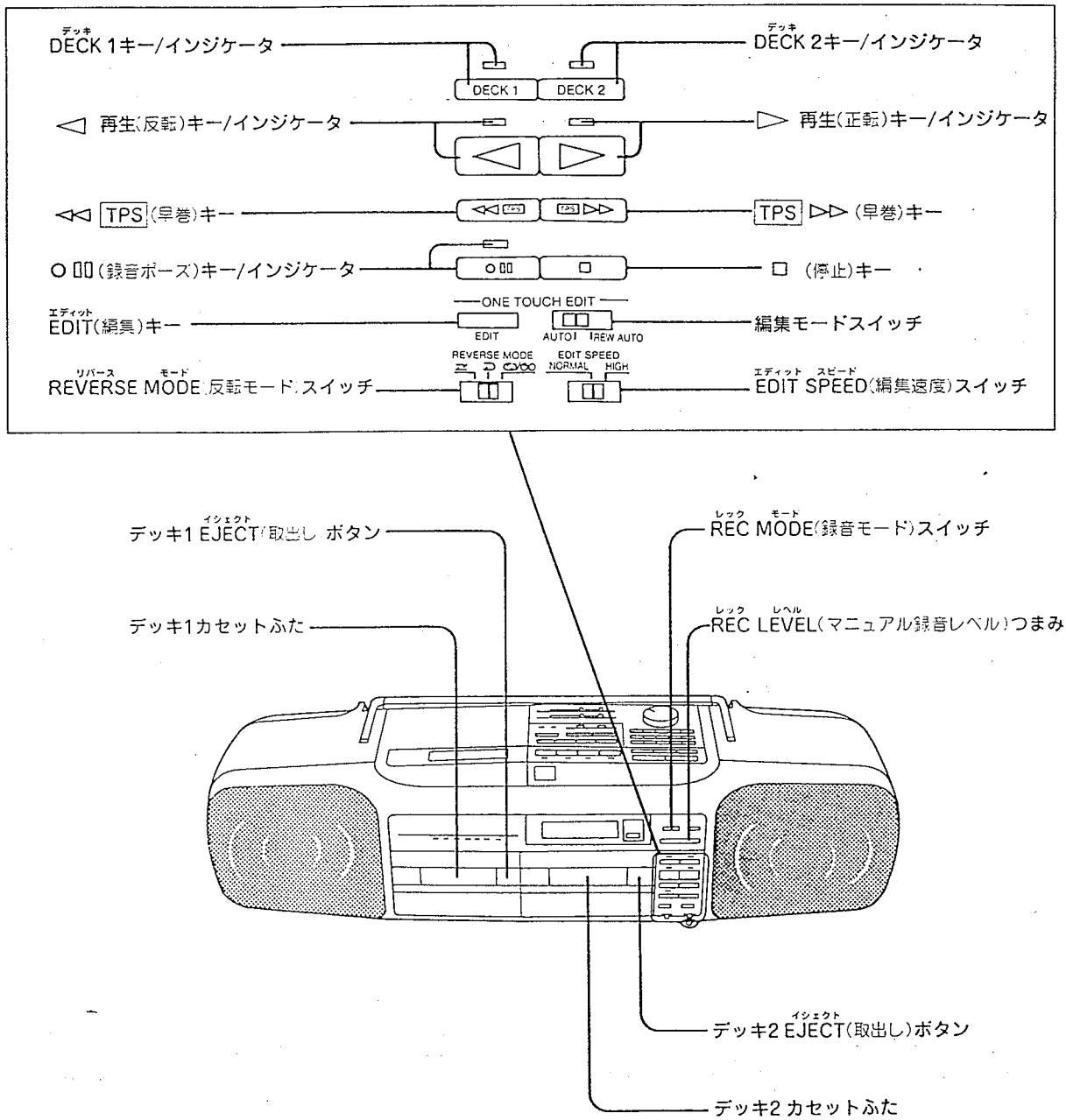
■CANCEL(予約取消し)キー

予約曲を全て取消したり、予約曲の最後の曲だけを順次取消したりできます。 P 15

・チューナのプログラム選局時には働きません。

■ATLSキー

CDをATLS(Automatic Tape Level Setting)録音するときに押します。CDの最適レベルを自動的に設定できます。 P 25



■DECK1・2キー/インジケータ
カセットがデッキ1、2の両方に入っているときは、使いたい側のDECKキーを押します。使えるデッキ側のインジケータが点灯します。P22

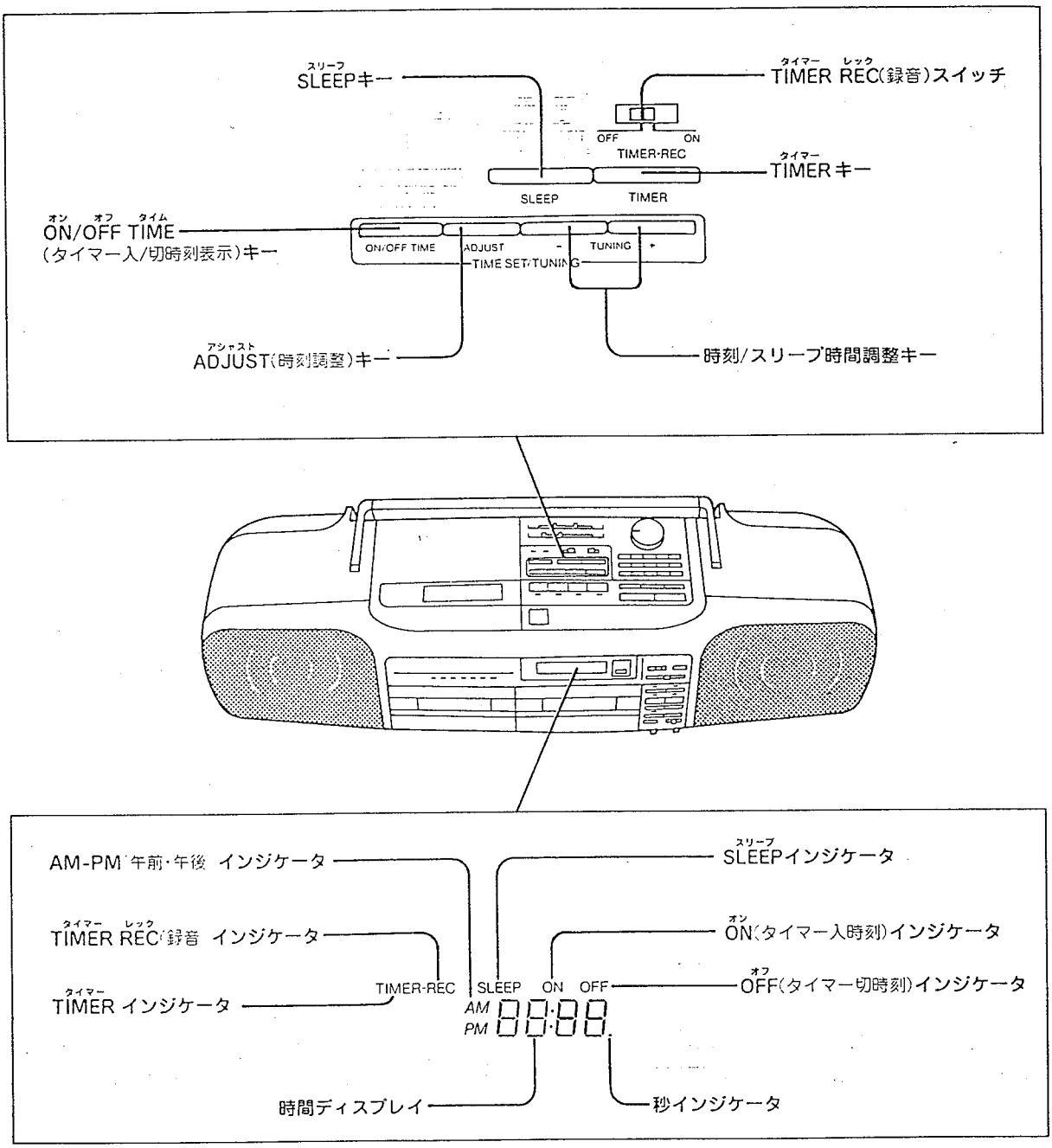
■EDIT(編集)キー
デッキ1からデッキ2にテープ編集ができます。P32

■編集モードスイッチ
テープ編集時、オート編集またはリワインドオート編集を選びます。

■REC MODE(録音モード)スイッチ
マニュアル録音または自動録音を選びます。P25
・通常は"AUTO"にしておいてください。

各部の名称と働き

タイマー部

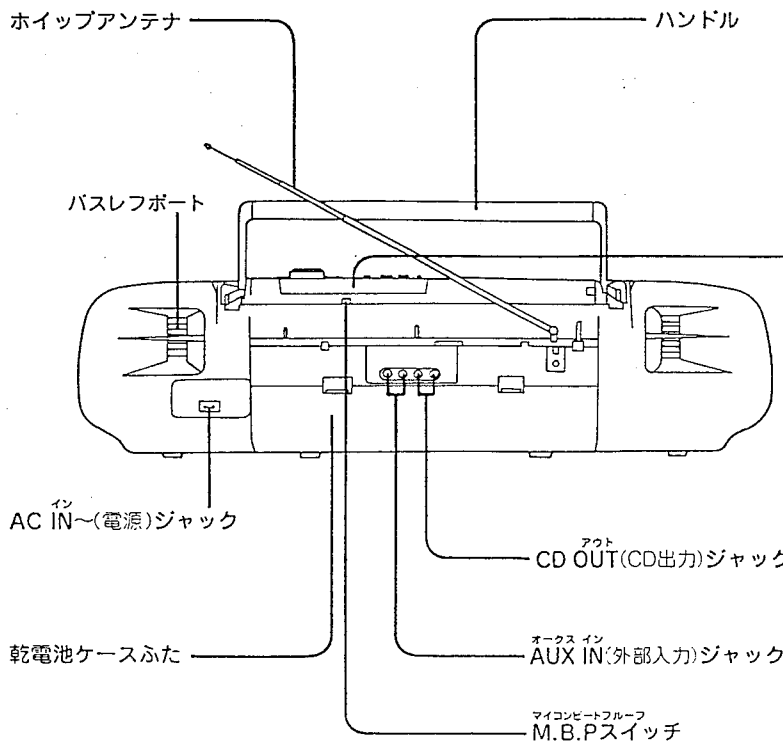


■ON/OFF TIME(タイマー入/切時刻表示)キー
タイマーの"入"・"切"時刻をセットするときと、確認するときに使います。

■ADJUST(時刻調整)キー
現時刻やタイマー入/切時刻を調整するときに押します。P 34

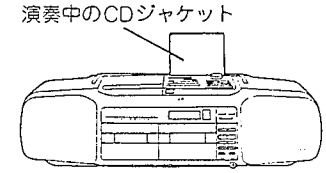
■TIMER REC(録音)スイッチ
タイマー録音するときは"ON"にします。
・通常は"OFF"にしておいてください。

後面部と付属品

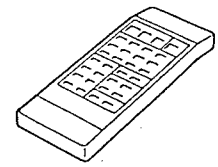
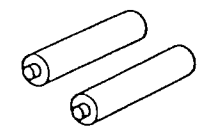


CDジャケットスタンド

演奏中のCDジャケット



ハンドルをたおすと、天面のくぼみにCDのケースをたてかけることができます。

付 属 品		
電源コード……1	リモコン……1  P40	乾電池〔単四形〕……2 (リモコン用) 

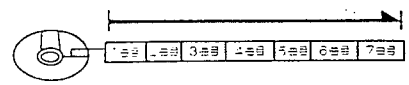
■CD OUT(アウト)(CD出力)ジャック
CDの音を他のステレオセットを使って聞くときに接続します。
P42

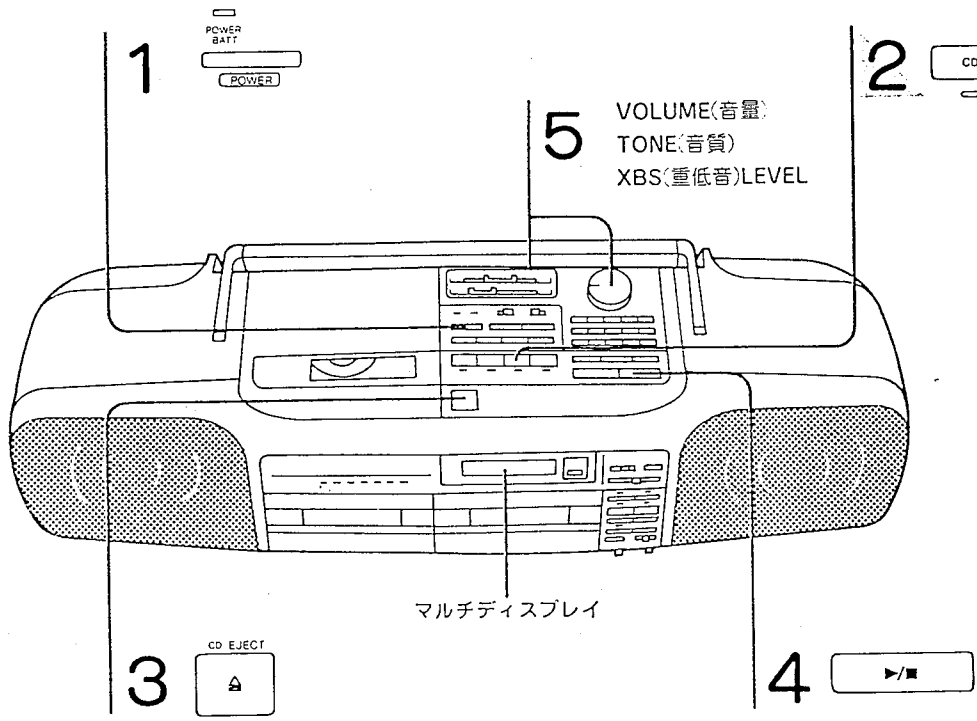
■AUX IN(オークス イン)(外部入力)ジャック
レコードプレーヤなどを本機に接続するときに使います P42

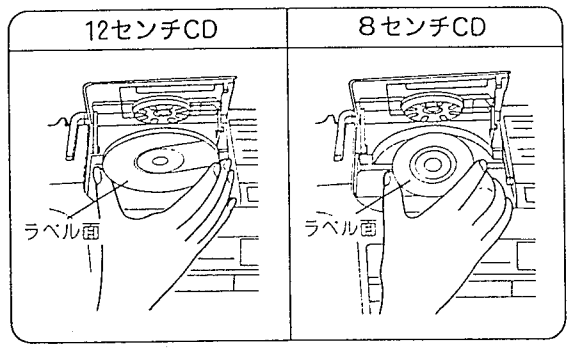
■M.B.P(マイコンビートプルーフ)スイッチ
ラジオ/テレビ放送受信時のビート音を軽減するスイッチです。

CDを聞く

1曲目から全曲聞く(オートプレイ)







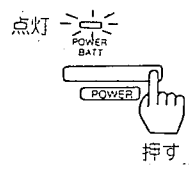
ご注意

- CD演奏中にディスクを取出す場合は、必ず ►/■ (演奏/停止) キーを押してディスクの停止を確認してから、CD EJECT(イジェクト) ボタンを押してください。
- CD演奏中に本機の近くて他のラジオやテレビを受信すると、妨害を受けることがあります。このような場合は本機をできるだけ遠ざけてご使用ください。

オートプレイ

手順　　マルチディスプレイ

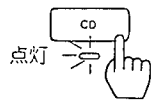
1



電源を入れます。

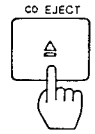
使用後は、必ずPOWER(パワー)スイッチを押して、電源を切ってください。

2



"CD"にします。

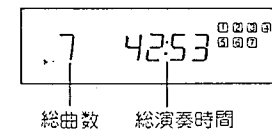
3



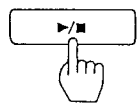
ディスクを入れます。

ディスクが回転し、ディスプレイは総曲数と総演奏時間を表示します。
(回転は止まります。)

● 7曲入り、42分53秒のディスクの場合



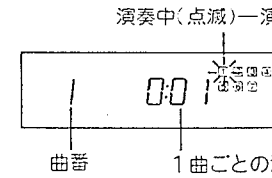
4



演奏/停止キーを押します。

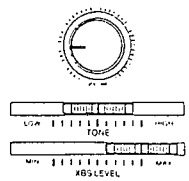
● 1曲目から演奏が始まります。

演奏中(点滅)—演奏後(消える)



[13曲目以降の曲では多曲インジケータ(▷)が点滅します。]

5



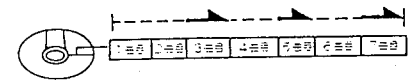
音量、音質を調整します。

● XBS LEVEL(レベル)つまみを"MAX"の方向にすると、重低音が強調されます。

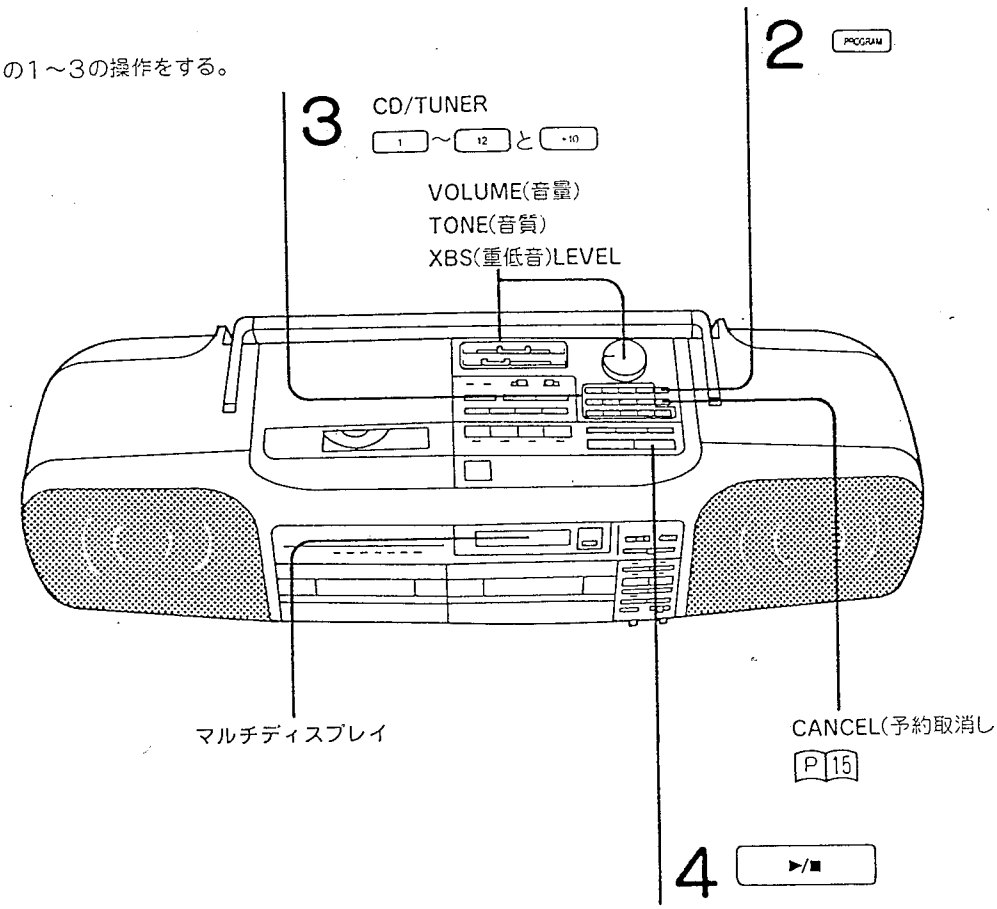
● 演奏を止めるときは、▶/■ キーを再度押します。
● 全曲の演奏が終わると、自動停止します。

CDを聞く

お好みの曲だけを聞く(プログラムプレイ)



●36曲まで予約できます。



ご注意

- ディスクの曲目以上の予約をすると、トラックディスプレイが"E"になり、曲のないことを表示します。
- 予約曲数が36曲を超えると、トラックディスプレイが"F"になり、それ以上予約できません。
- 予約した演奏時間が合計99分59秒を超えた場合(例えば138分となった場合)、時間表示は"99:59"と表示します。

- 多曲数(13曲以上)のディスクでは
13曲目以降の曲は全て"▷"表示となります。プログラムプレイなどの操作は12曲以内のディスクの場合と全く同じです。

- 予約内容を確認するには
プログラムプレイの演奏前や停止時に ▶▶/▶▶| キーまたは、|◀◀/◀◀ キーをくり返し使って確認できます。予約内容はマルチディスプレイに表示されます。

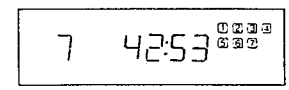
プログラムプレイ

手順　　マルチディスプレイ

●7曲入り、42分53秒のディスクの場合

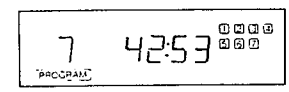
1 POWER → CD → CD EJECT

オートプレイ P 10 の1～3の操作をします。



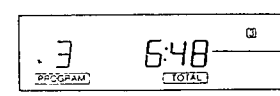
2 PROGRAM 押す

PROGRAM（プログラム）キーを押します。

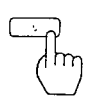


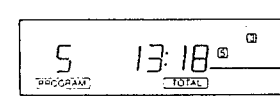
3 1 2 3 4 / 5 6 7 8 / 9 10 11 12 +10 CD/TUNER

好みの曲番 1 ～ 12 と +10 を押します。



3曲目の演奏時間

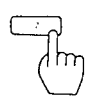


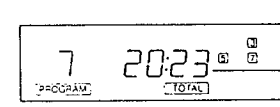


3曲目と5曲目の合計演奏時間

●マルチディスプレイの表示は
好みの曲番を押すと、最初に演奏順を表示し、2秒後に(合計演奏時間表示に変わります。

〔例〕
1 を押す……3--01→3 6:48
2 を押す……5--02→5 13:18
7 を押す……7--03→7 20:23





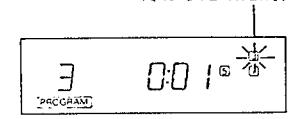
予約曲の総演奏時間

4 ▶/■ 押す

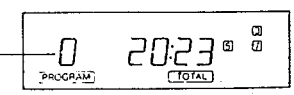
演奏/停止キーを押します。

●予約順に演奏が始まります。

演奏中の曲が点滅し、演奏が終わった順に消えます。



●演奏を止めるときは、▶/■ キーを再度押します。



予約を継続して停止中を示しています。

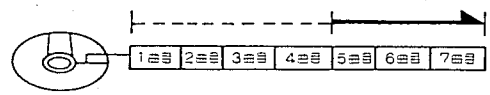
●予約曲の演奏が終わると自動停止します。

●プログラムメモリー機能
一度予約すれば、電源を切ってもディスクを取出さない限り、予約内容は消えずに保持されています。同じCDを聞くときには、予約し直す必要がありません。特にタイマー演奏時に便利です。
（PROGRAM インジケータが点灯しています。）

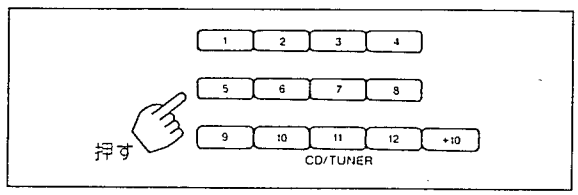
●13曲目以上を予約するには
+10 を押した後、1 ～ 12 を押します。
（たとえば16曲目：+10 → 5
28曲目：+10 → +10 → 8）

CDを聞く

お好みの曲から聞く
（ダイレクトプレイ）



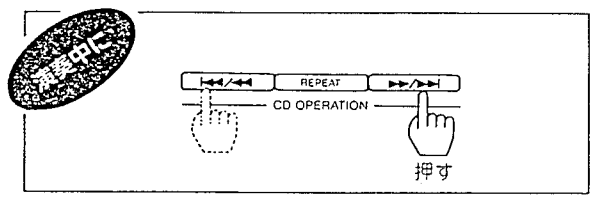
（5曲目から聞くとき）



演奏前や演奏中にお好みの曲番を数字キーで指定します。指定した曲から順に演奏します。

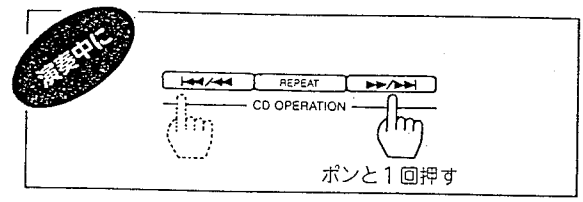
●13曲目以上は、"+10"キーと"1"～"12"のキーを併用して指定できます。

音を聞きながら聞きたいところをさがす（サーチプレイ）



演奏中に ⏭/▶▶ キー（または ⏮/◀◀ キー）を押続けると、演奏音（演奏中の約1/4の大きさ）を聞きながら、早送り（早戻し）ができます。曲の中の聞きたいところにきたら、指を離してください。

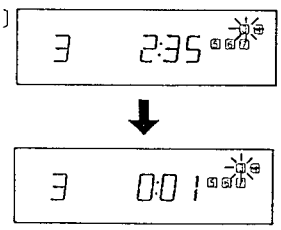
お好みの曲の頭出しをする
（スキッププレイ）



演奏中や一時停止中に、簡単に演奏中の曲や前後の曲の頭出しができます。

●演奏中の曲を最初から聞く ⏮/◀◀

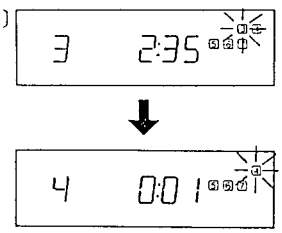
〔例〕



3曲目の演奏中に押すと、3曲目を最初から演奏します。

●演奏中の曲をとびこして次の曲を聞く ⏭/▶▶

〔例〕



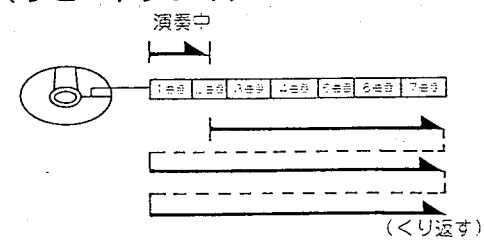
3曲目の演奏中に押すと、4曲目を最初から演奏します。

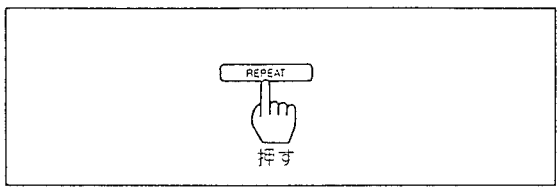
●プログラム予約中はダイレクトプレイはできません。
演奏前に"+10"、"1"～"12"のキーを押すとプログラム予約曲の追加として働きます。
ダイレクトプレイをするには、演奏前にPROGRAM（プログラム）キーを押した後に、CANCEL（キャンセル）キーを押して予約曲を取消してください。

●プログラムプレイ中のサーチは、演奏中の曲の中だけでできます。

●前後に数曲スキップするには
⏮/◀◀ キー（または ⏭/▶▶ キー）をくり返し押すと、お好みの曲の頭までスキップすることができます。
・ディスプレイパネルのトラックディスプレイで曲番を確かめてください。
・プログラムプレイ中は、予約した曲順にスキップします。

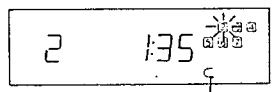
全曲演奏をくり返し聞く
（リピートプレイ）





演奏前や演奏中にREPEAT（リピート）キーを押すと、全曲の演奏をくり返し聞けます。

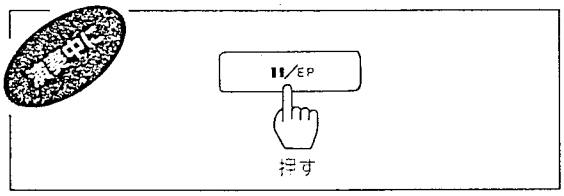
〔例〕



リピートインジケータ

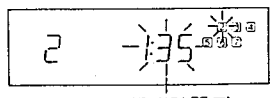
（もう一度押すと解除されます。）

演奏を一時止める
（ポーズ）



演奏中に、II/EP キーを押すと、演奏が一時的に止まります。

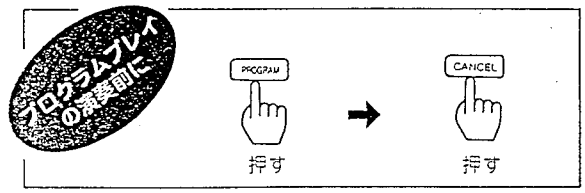
〔例〕



演奏時間ディスプレイが点滅。

（もう一度押すと、止まったところから再び演奏が始まります。）

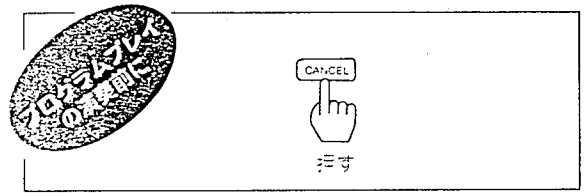
予約曲を全て取消す
（キャンセル）



フログラムプレイの演奏前に、PROGRAM（プログラム）キーを押したのち、CANCEL（キャンセル）キーを押すと、予約曲を全て取消すことができます。

- PROGRAM（プログラム）キーを押すと、マルチディスプレイのPROGRAMインジケータが点滅しますので、点滅中にCANCEL（キャンセル）キーを押します。

予約曲の最後の曲だけを取消す
（キャンセル）



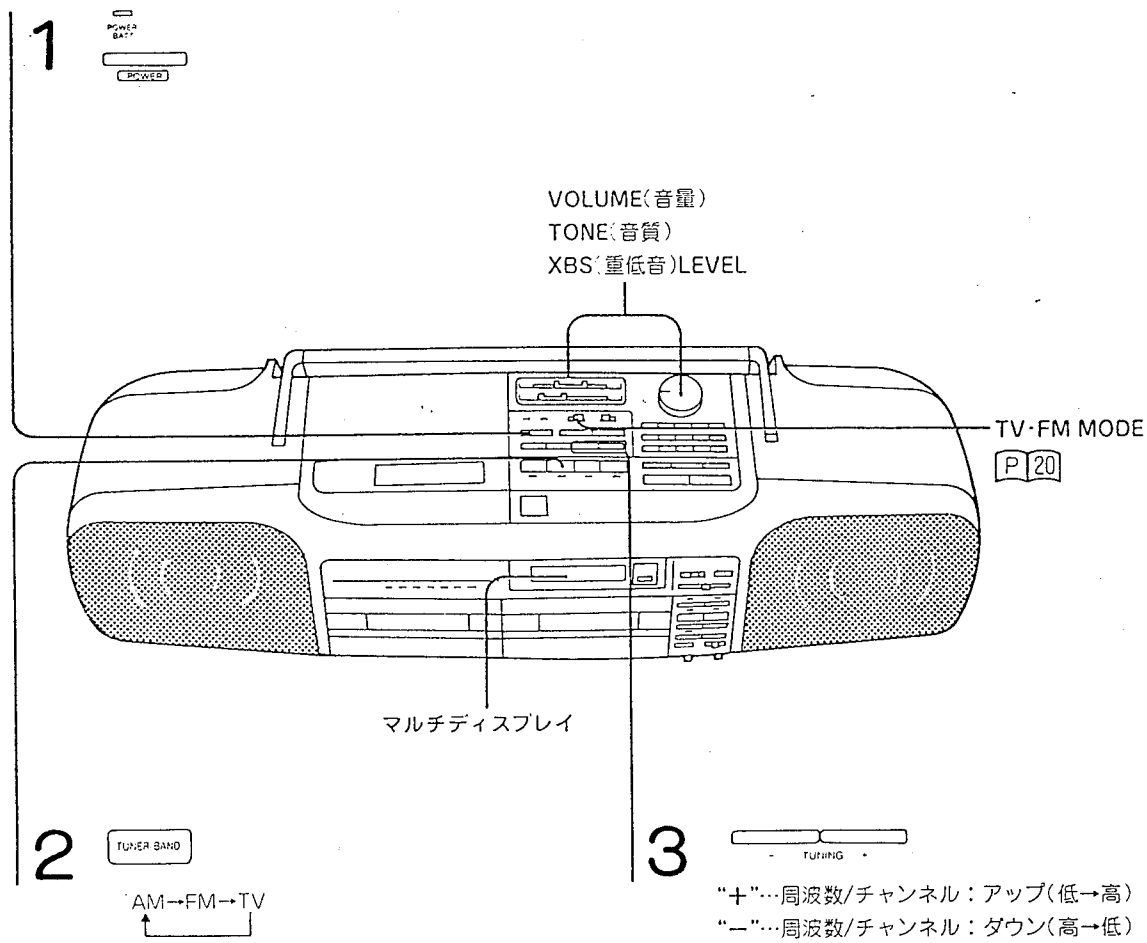
フログラムフレイの演奏前に、CANCEL（キャンセル）キーを押すと、予約曲の最後の曲だけを順次取消すことができます。

- プログラムプレイ中のリピートは、予約した曲だけを予約順に、くり返し演奏します。

ラジオ/TVサウンドを聞く

〈選局の種類〉

2種類の選局方法があります。聞きたい放送に合わせて選局方法を選んでください。
1 アップ・ダウン選局…受信したい放送局の周波数がわからないとき(マニュアル選局/オートスキャン選局)。
2 プログラム選局……あらかじめプログラムした放送局をすぐに受信するとき。

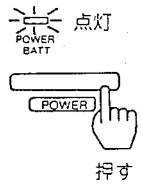


ご注意

- ラジオ/テレビ放送受信時、ビート音(「ピー」という音)が入ることがあります。そのときは、本体後面のマイコンビートブルーフスイッチ(M.B.P.)をビート音の少ない方(Ⅰまたは Ⅱ)に切換えてください。
- 電波が弱く受信状態が悪い場合は、オートスキャン選局が自動停止しないことがあります。また周囲に妨害電波がある場合は、それで自動停止することがありますが、故障ではありません。

手順　　マルチディスプレイ

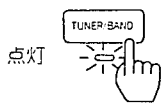
1



電源を入れます。

使用後は、必ずPOWER（パワー）スイッチを押して、電源を切ってください。

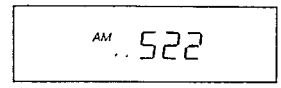
2



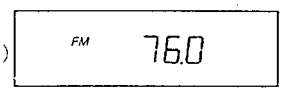
TUNER（チューナ）/ BAND（バンド）キーを押して、希望のバンドにします。

●押すたびに、AM→FM→TV→AM…と順番に切換わります。

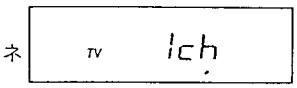
AM放送（522kHz）



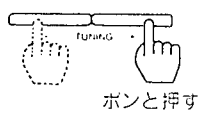
FM放送（76.0MHz）



TV放送（1チャンネル）



3



TUNING（チューニング）キー（“＋”または“－”）を押して希望放送を選局します。

マニュアル選局

TUNING（チューニング）キーを一度ずつ押します。

AM：9kHzステップで切換わります。

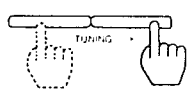
FM：0.1MHzステップで切換わります。

TV：1チャンネルステップで切換わります。

AM放送 522→531→540→549→

FM放送 76.0→76.1→76.2→76.3→

TV放送 1ch→2ch→3ch→4ch→



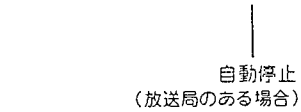
オートスキャン選局

TUNING（チューニング）キーを押して、マルチディスプレイの周波数（チャンネル）表示が動き始めてから指を離します（約0.5秒以上）。

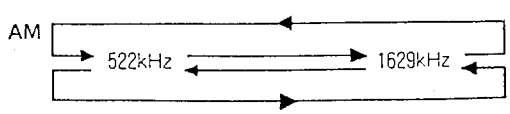
放送局のあるところを自動的に探して止まります。

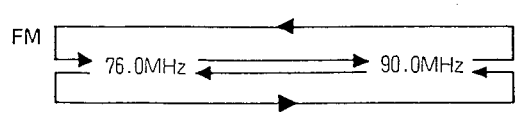
●途中で止めるときは、TUNING（チューニング）キーを再度押します。

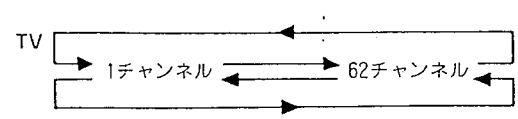
FM放送の場合（例）



オートスキャン選局の場合、各バンド帯の上限、下限に達すると、受信周波数（チャンネル）は自動的に各バンド内の上限、下限へと切換わります。







ラジオ/TVサウンドを聞く

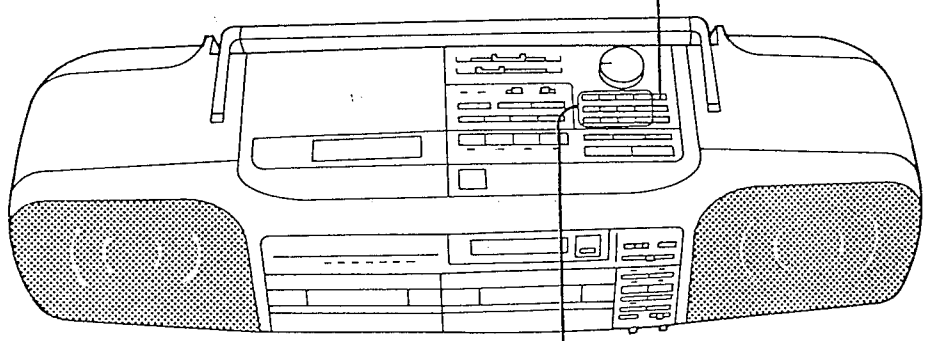
アップダウン選局(マニュアル選局またはオートスキャン選局)した後、その受信周波数(チャンネル)を記憶させておくと、数字キーを押すだけで簡単に選局できます。

● 1～12の数字キーにAM、FM、TVの各バンドでそれぞれ12局記憶できます。(AM12局、FM12局、TV12局 合計36局)

プログラムのしかた

1 希望放送を選局する。P16

2 PROGRAM



3 CD/TUNER 1～12

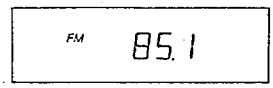
4 1～3の操作をくり返す。

手順　　マルチディスプレイ

1

POWER
↓
TUNER/BAND
↓
TUNING

希望放送を選局します。P16

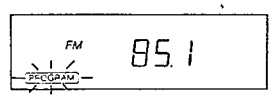


（FM85.1MHzを受信した場合）

2

押す

PROGRAM（プログラム）キーを押します。
- PROGRAMインジケータが点滅します。（約10秒）
- もう一度押すと取消されます。

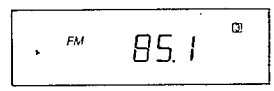


（10秒間点滅する）

3

押す

1～12のいずれかの数字キーを押します。
- たとえば、3キーを押すと、“3”に記憶されます。
- 数字キーは、PROGRAMインジケータが点滅している間（約10秒間）に押してください。



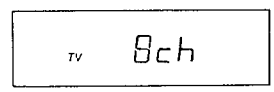
4

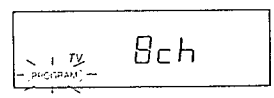
1～3の操作をくり返します。

（例）
TV放送の8チャンネルを“11”に記憶させるとき。

押す

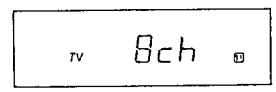
1 PROGRAMキーを押します。





押す

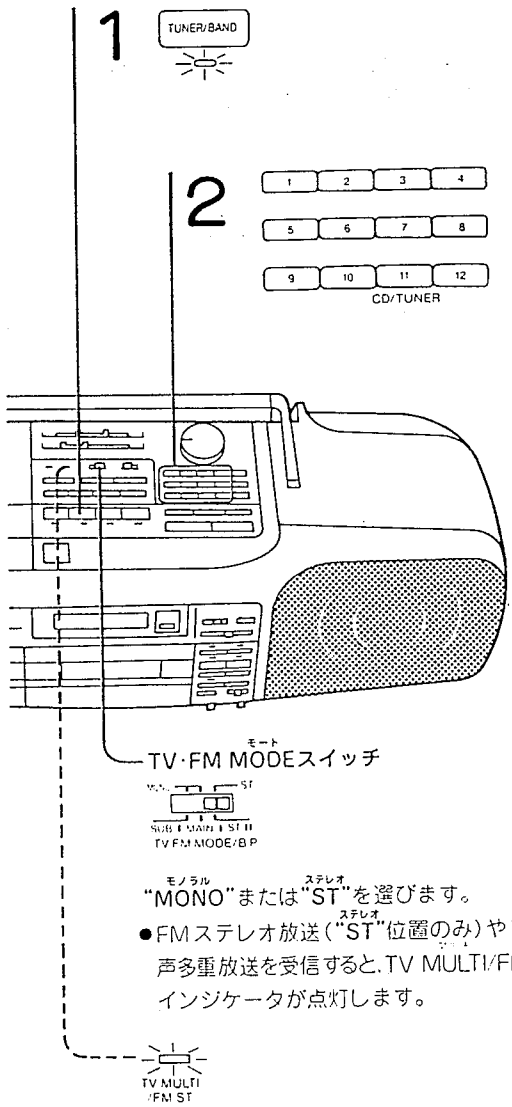
2 11キーを押します。



- すでにプログラムしている数字キーに新しくプログラムすると、前のプログラムは取消されます。
（CANCEL（キャンセル）キーでは取消しできません。CANCEL（キャンセル）キーはCDのプログラム選曲時専用です。）

ラジオ/TVサウンドを聞く

プログラム選局



1 TUNER/BANDキーを押して希望のバンドを選びます。

2 あらかじめ、プログラムしている[1]～[12]のいずれかのプログラム選局(数字)キーを押します。

"MONO"または"ST"を選びます。

- FMステレオ放送("ST"位置のみ)やTV音声多重放送を受信すると、TV MULTI/FM STインジケータが点灯します。

ラストワン選局

電源を切ったり、他のソース(テープ/CD/外部機器)を聞いていても、以前の受信状態は記憶されています。
TUNER/BANDキーを押して電源を入れると、再び同じ放送局を受信します。

ご注意

- FMステレオ放送やTV音声多重放送受信時、電波の弱いところでは、受信状態が悪くなります。(TV MULTI/FM STインジケータの点灯状態が不安定になることもあります。)その場合は、TV/FM MODEスイッチを"MAIN・MONO"に切換えて、モノラルでお聞きください。
- テレビ放送を選局するとき、すぐ近くにテレビがある場合、画面に影響を与えることがありますが異常ではありません。このような場合は、テレビからできるだけ離してご使用ください。

豆知識

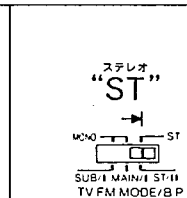
乗物や建物などの中では、電波が弱まり聞こえにくくなることがありますので、できるだけ窓ぎわでお聞きください。

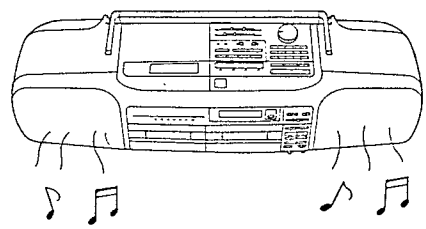
テレビの音声多重放送を聞く

テレビの音声多重放送（ステレオ放送や2重音声放送）を受信すると、TV MULTI/FM ST インジケータが点灯します。

ステレオ放送

ステレオ

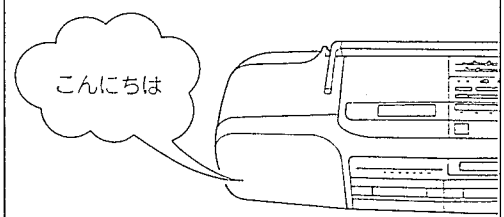




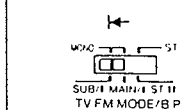
2重音声放送

主音声

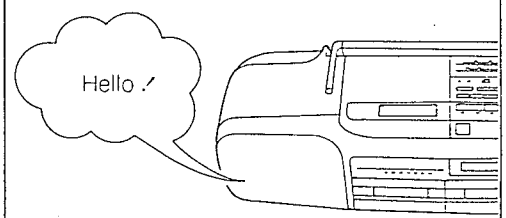
2ヵ国語放送での日本語放送や、通常のテレビ放送の音声。



副音声

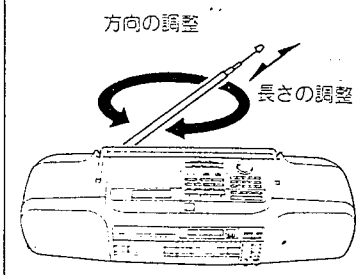


2ヵ国語放送での外国語放送や、2重音声放送での副音声。



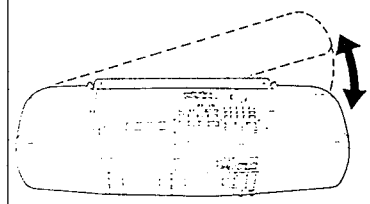
アンテナの調整（よりよい受信をするために）

●FM放送やテレビの音声を聞くとき



●AM放送を聞くとき

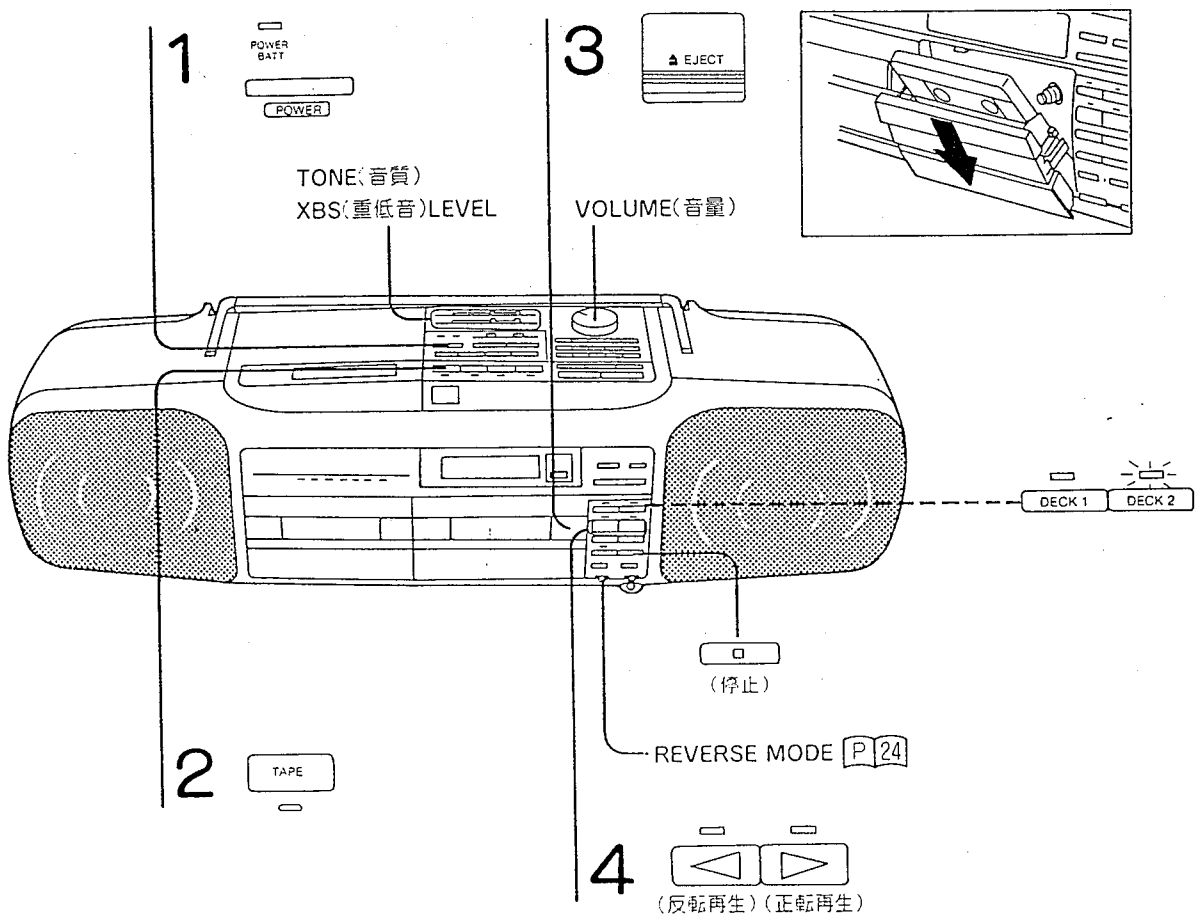
本機の向きを変えて、最もよく聞こえるように調整してください。



- ステレオ放送を "SUB・MONO" 位置で聞くと、音が小さくなります。必ず"STEREO"にしてください。
- 2重音声放送を "STEREO" 位置で聞くと、主音声と副音声が混成音で同時に聞こえます。その場合は、"MAIN・MONO" または "SUB・MONO" を選んでください。
- 受信時は、正しい周波数で選局してください。正しい周波数は、新聞の番組欄などで確かめてください。

テープを聞く

デッキ1、デッキ2のどちらでも使えます。
●デッキ2を使って単独再生する場合の操作例です。



オートテープセレクタ

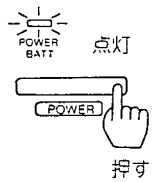
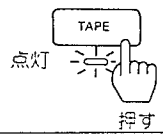
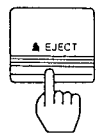
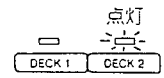
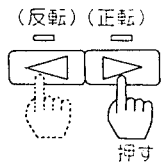
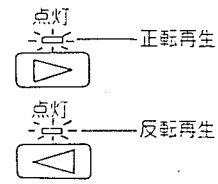
本機は、テープ(ノーマル又は、クロームタイプテープ)を装着すると自動的にテープの種類を識別して、バイアスとイコライザを設定します。
(メタルテープは再生時のみ使用できます。)

DECK(デッキ)1・2インジケータ

本機のデッキ操作キーは、デッキ1・2を兼用しています。カセットをどちらかのデッキに入れると自動的に検知して(DECK(デッキ)1・2インジケータが点灯して)、カセットを入れた側のデッキが働きます。

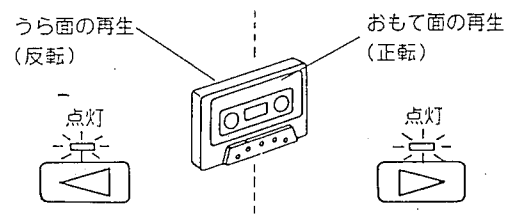
■大切な録音を誤って消さないために
カセットテープの安全片を折取ってから P44、テープを聞くことをおすすめします。

■カセットを両方のデッキに入れたとき
- DECK(デッキ)1・2インジケータの点灯している側のデッキが働きます。
- 動作するデッキを切換えたいときは、希望のDECK(デッキ)キーを押してください。
- カセットを後から入れた方のデッキが優先して切換わります。
- 途中でPOWER(パワー)スイッチで電源を切って、再度入れると、動作できるデッキは必ずデッキ2になります。

手順		インジケータ
1	 電源を入れます。 使用後は、必ずPOWER（パワー）スイッチを押して、電源を切ってください。	
2	 “TAPE（テープ）”にします。	
3	 デッキ2にカセットを入れます。	
4	 正転再生キーまたは反転再生キーを押します。 ●両面再生をするときは［▷］キーを押します。 ●再生中に逆方向のキーを押すと、再生面が切換わります。	

●テープを止めるときは［□］キーを押します。

テープの走行方向



フルオートストップ

録音、再生、早送り、巻戻し中に、テープが終端までくると、自動的にテープ走行が停止します。
ただし、再生時にREVERSE（リバース）MODE（モード）スイッチが“ ⊂⊃/⊂⊃ ”位置ではオートストップは働きません。

便利メモ

片方のデッキで再生中、DECK（デッキ）キーを切換えると、もう一方のデッキで早送り/巻戻し操作ができます。
その場合、早送り/巻戻し操作が終われば、再度DECK（デッキ）キーを押して動作できるデッキを切換えておいてください。

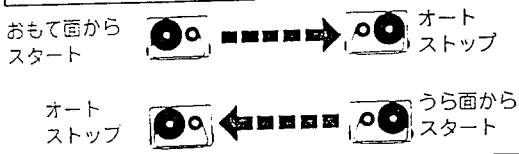
●テープの走行方向を示すインジケータは、デッキ1、2のインジケータに関係なく再生しているテープの走行方向を表示しています。

テープを聞く

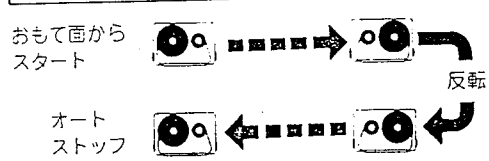
リバースモード

REVERSE(リバース) MODE(モード)スイッチは、つぎのように切換えます。

片面録音/再生モード（⇄）

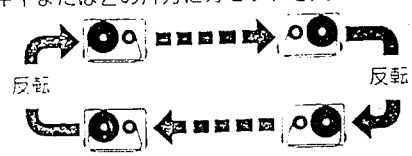


両面録音/再生モード（⇄）



エンドレス再生モード（CD/CO）

（デッキ1または2の片方にカセットを入れる）

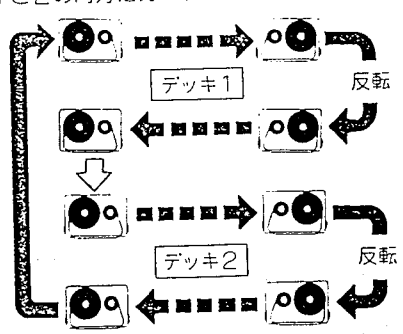


停止キーを押すまで連続して再生をくり返します。

- 録音時（デッキ2）は、両面録音モード（⇄）になります。

2巻両面連続エンドレス再生モード（CD/CO）

（デッキ1と2の両方にカセットを入れる）



デッキ1とデッキ2でエンドレス再生をします。

曲の頭出しをする(TPS)

〔TPS(Tape(テープ) Program(プログラム) Sensor(センサ))〕
今聞いているところから前後の曲間にとびこして、曲の初めから再生ができます。

1 テープ単独再生状態にします。

2 TPSキーを押します。
正転(▷)再生中に押すと…

⏮……今聞いている曲の頭に戻って再生します。

⏭……つぎの曲の頭から再生が始まります。

- 反転(◁)再生中には逆の働きになります。
- 頭出し中はインジケータが点滅します。
- 片側のデッキで頭出し中、もう一方のデッキを操作することはできません。

ご注意

- 両面録音/再生時は、うら面からスタートすると、うら面だけ録音または再生してオートストップします。
- リーダテープ付のカセットをご使用のときは、その部分の録音ができません。

ご注意

次のような場合、TPSが正常に動作しないことがありますが、故障ではありません。

- テープの曲間が4秒未満のとき
- マイクロホンから録音したテープの再生（無音部分がない場合があります。）
- 曲の中で特にレベルの低いところや無音部分のある場合
- 今聞いている曲の頭または次の曲の頭までが、10秒以下の場合

録音する

REC MODEスイッチをつぎのように切換えます。

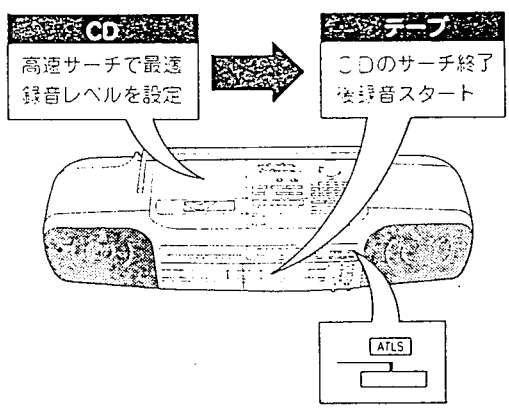
1 自動録音(AUTO)

REC LEVEL つまみの位置に関係なく、簡単に自動録音できます。

●CD録音時には、ATLS録音をおすすめします。

ATLS録音
(Automatic Tape Level Setting)

ダイナミックレンジが広く、録音レベルのばらつきが大きいCDの最適かつ確実な録音には、録音レベルの設定が重要です。ATLS録音では、従来の自動録音の手軽さでリニアリティー(忠実度)の高い自動CD録音が可能です。
録音ポーズ状態からATLSボタンを押すだけで、マイコンにより、CDを高速でサーチし、最適録音レベルを設定後、自動的に録音を開始します。



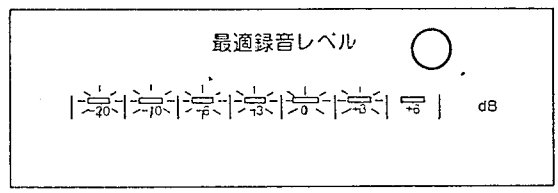
●REC MODEスイッチは必ず"AUTO"にしてください。
●高速サーチ中、ATLSキーをもう一度押すと、ATLS録音は解除されます。
●ATLS録音中にCDを止めたり、REC MODEスイッチを切換えると、レベル設定が解除されます。

2 マニュアル録音(MANUAL)

レベルメータを見ながら、REC LEVEL つまみでお好みの録音レベルに調整することができます。
●全てのソース(TAPE/TUNER/CD/AUX)とも演奏(受信)状態で録音レベルを調整できます。

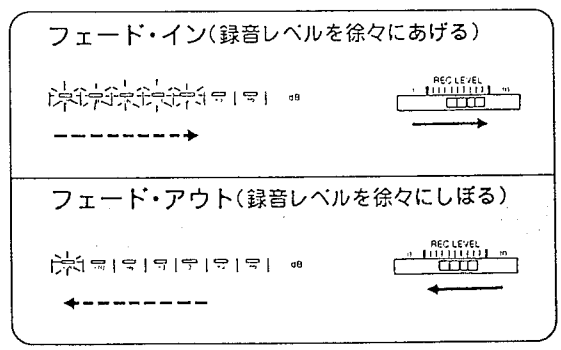
■レベルメータの見かた

大きな音が入ってきたときに、"+3"がときどき点灯するくらいが最適な録音レベルです。
(瞬間的に"+3"をこえて点灯してもさしつかえありません。)



●"+6"がひんぱんに点灯するときは、音の割れたひずみの多い録音になります。
●"0"がほとんど点灯しないときは、音が小さく、テープノイズの目立つ録音になります。

DJ(ディスクジョッキー)スタイルで、フェード・イン、フェード・アウトなどの音作りが楽しめます。



ご注意

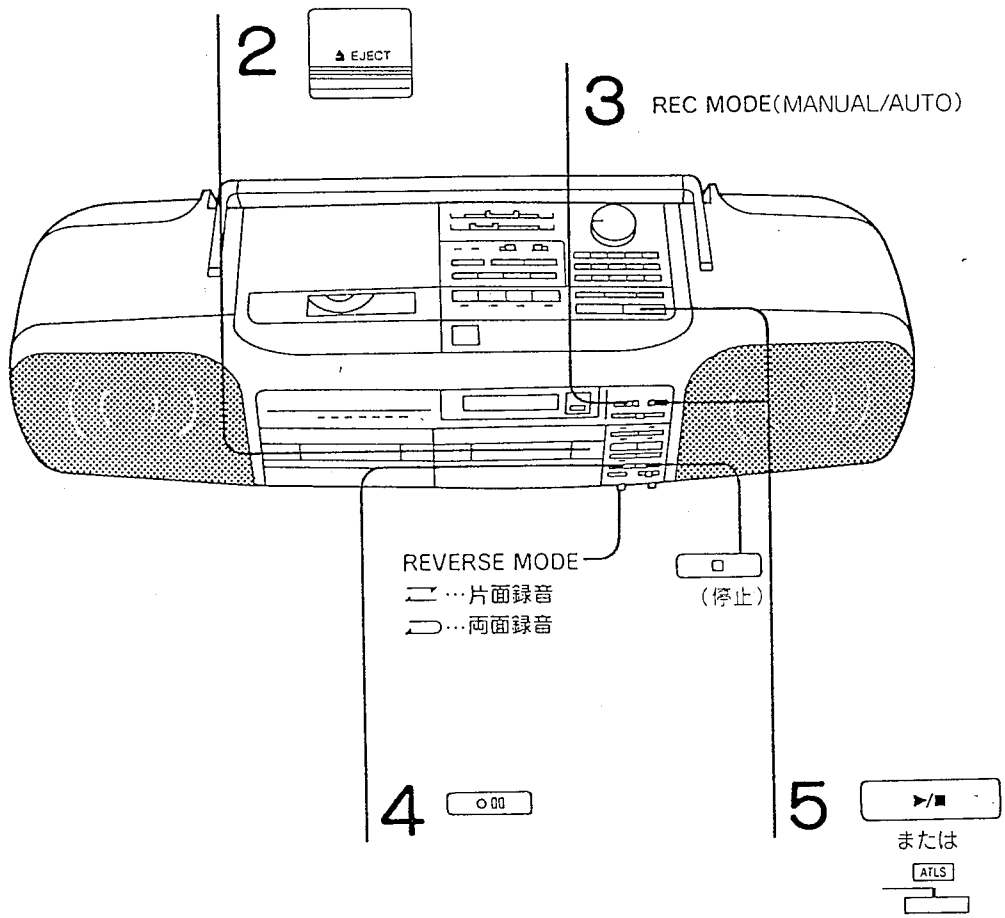
マニュアル録音するとき以外は、REC MODEスイッチを"AUTO"にしておいてください。

CDから録音する

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、
著作権法上、権利者に無断で使用できません。

- 必ず録音する面に誤消去防止用の安全片が付き、テープが左側に巻取られたカセットをお使いください。
- あらかじめプログラムプレイでお好みの曲を予約すると、録音したい曲だけを編集録音できます。
- MANUAL(手動)録音するときは、あらかじめCD演奏状態で、録音レベルの設定を行なってから操作してください。

1 P10の1～3の操作をする

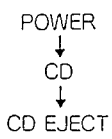


録音中に押すと、

- □ ……テープは止まり、CDは演奏を続けます。
- ▶/■ ……CDは止まり、テープは録音ポーズ状態になります。(CDシンクロ録音機能)
- II/EP ……一時停止します。もう一度押すと再び録音がスタートします。

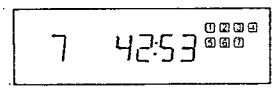
手順　　マルチディスプレイ

1

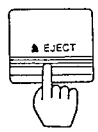


電源を入れて、ディスクを入れます。

〔例〕



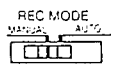
2



デッキ2に録音用カセット(安全片付)を入れます。

●DECK(デッキ)2インジケータが点灯します。

3

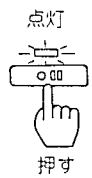


録音モードを選びます。

MANUAL(マニュアル)……マニュアル録音

AUTO(オート)……自動録音またはATLS録音

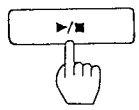
4



録音ポーズ(○□□)キーを押します。

●録音ポーズインジケータが点灯し、正転側(▷)と反転側(◁)のインジケータが点滅します。

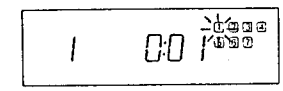
5



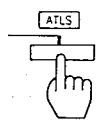
マニュアル録音・自動録音の場合

演奏/停止キーを押します。
自動的に正転録音が始まります。

●正転側(▷)のインジケータが点滅→点灯になります。



ATLS録音の場合(REC(レック) MODE(モード)…"AUTO"(オート))



ATLSキーを押します。

CDは高速サーチ状態（約60倍速でサーチ音が出ます）になり、最適録音レベルを設定したのち、自動的に通常の速度で正転録音がスタートします。

●録音を止めるときは [▶/■] キーと [○□] キーを押します。

ご注意

- 録音中にサーチ操作はしないでください。モニタ音が録音されます。
- リーダテープ付のカセットを使う場合は、あらかじめリーダテープを巻取っておいてください。
- 録音中にSELECTOR(セレクタ)キーをCD以外(TAPE・TUNER・AUX)に切換えないでください。必ず [▶/■] キーでCDの演奏を停止してからCD以外に切換えてください。

便利メモ

DECK(デッキ)1インジケータが点灯していても、録音ポーズキーを押すと、自動的にDECK(デッキ)2インジケータが点灯し、デッキ2を操作できます。

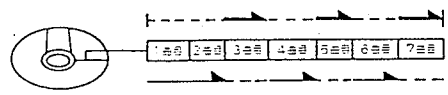
- デッキ2が録音(または録音ポーズ)状態になると、デッキ1を操作できません。

CDから録音する　（CDから上手に両面録音する）

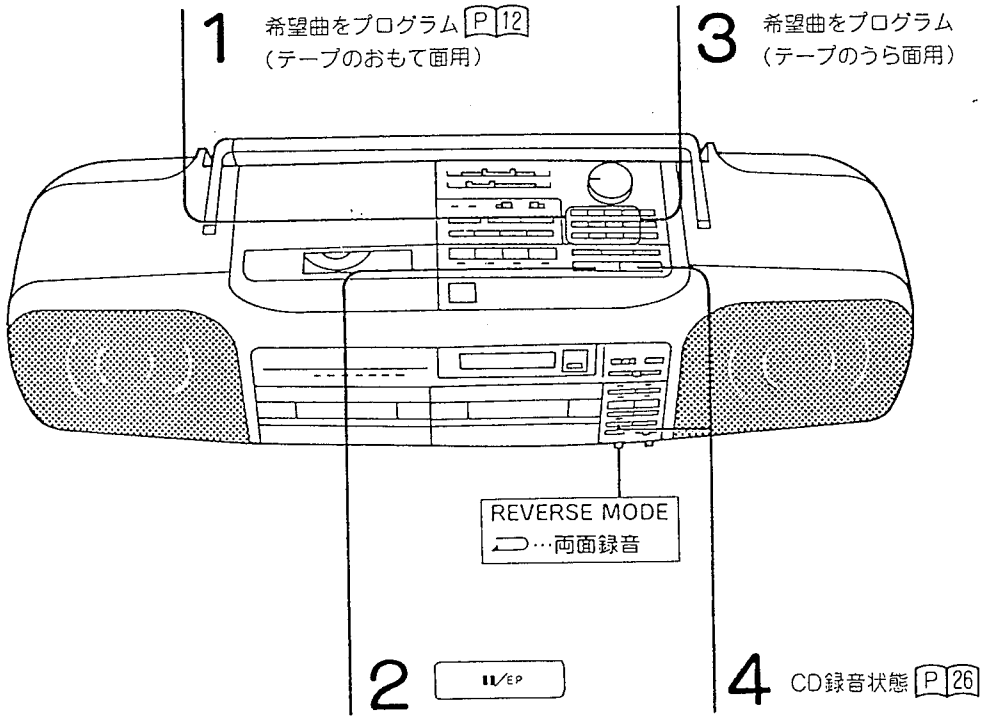
エディットポーズとはCDからテープの両面に録音するとき、テープ反転時の音切れを防ぐ機能です。

- 本機は演奏する曲の合計時間を計算してディスプレイに表示する合計時間表示機能を備えています。エディットポーズを使って、テープにむだなく、きっちり録音するときに便利です。
- 例えばC-46のテープに録音するときは、テープのおもて面側、うら面側に録音する曲の総演奏時間がそれぞれ23分をこえないようにします。
- 必ず両面とも誤消去防止用の安全片が付き、テープが左側に巻取られたカセットをお使いください。

（例）　C-46テープのおもて面に録音



C-46テープのうら面に録音

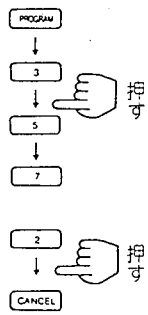


ご注意

- REVERSE MODE（リバース　モード）スイッチは必ず " ⊃ " にしてください。
- エディットポーズを使って録音しているときは ▶/■ キー以外のCD操作キーは受付けません。(" E " が表示されます。)

手順　　マルチディスプレイー

1

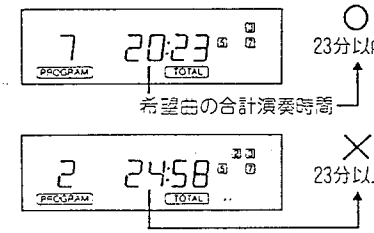


テープのおもて面に録音する曲をプログラムします。

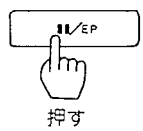
例：3曲目→5曲目→7曲目

●もう1曲入らないか、ためしに入れてみます。23分をこえれば、CANCEL（キャンセル）キーを押してその1曲だけ取消し、7曲目までのプログラムに戻します。

〔例〕



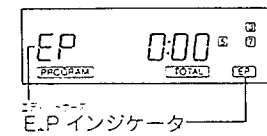
2



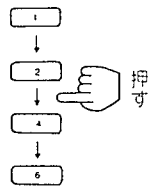
II/E.P（エディットポーズ）キーを押します。

●E. P インジケータを表示し、時間表示は 0:00 になります。

●取消すときは、CANCEL（キャンセル）キーを押します。

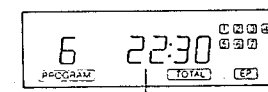


3



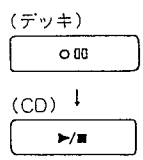
テープのうら面に録音する曲をプログラムします。

例：1曲目→2曲目→4曲目→6曲目



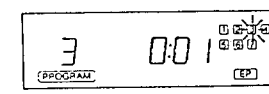
テープのうら面に録音する曲の合計演奏時間が表示されます。

4

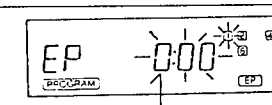


CD録音状態にします。P 26

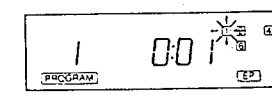
おもて面：3曲目→5曲目→7曲目
うら面：1曲目→2曲目→4曲目→6曲目
の順に録音されます。



●おもて面用の7曲目が終わると、テープがうら面に切換わるまで、うら面用の1曲目は始まりません。



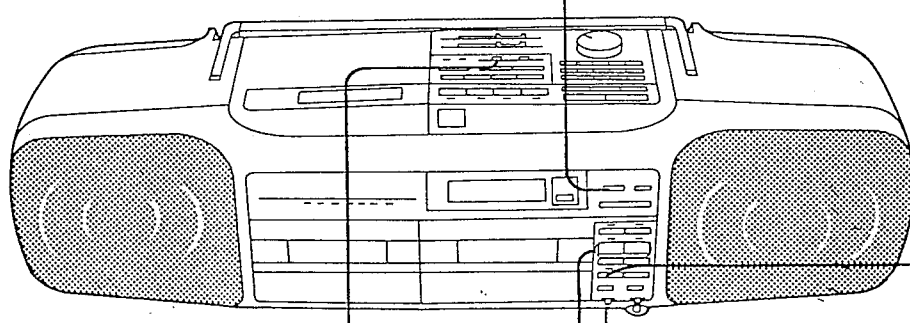
●テープがうら面に切換わると、1曲目が始まります。



ラジオ/TVサウンドを録音する

1 ラジオ/TVサウンドを受信し、
デッキ2にカセットを入れる

2 REC MODE
(MANUAL/AUTO)



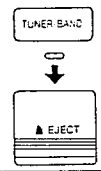
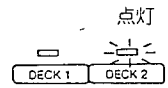
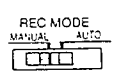
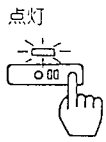
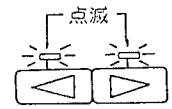
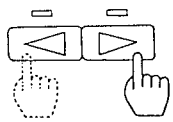
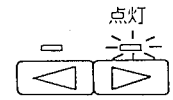
3

REVERSE MODE
⇄ …片面録音
⇄ …両面録音

4

ビートプルーフ
B.P スイッチ
AM放送を録音するときは.B.Pスイッチをビート音や雑音(ノイズ)の少ない方(Ⅰまたは Ⅱ)に切換えて録音してください。

ラジオ/TVサウンドを録音する

手順		インジケータ
1	 ラジオ受信状態にし、デッキ2にカセット(安全片つき)を入れます。	
2	 録音モードを選びます。 MANUAL(マニュアル)…マニュアル録音 ・適切なレベルにセットします。 AUTO(オート)……自動録音	
3	 録音ポーズ(O DD)キーを押します。 ●録音インジケータが点灯します。	
4	 録音したい面の再生キー(▷)または(◁)を押します。 ●両面録音をするときは、▷キーを押します。	(▷▷ キーを押した場合) 

●録音を止めるときは□ キーを押します。
(停止)

モニタする

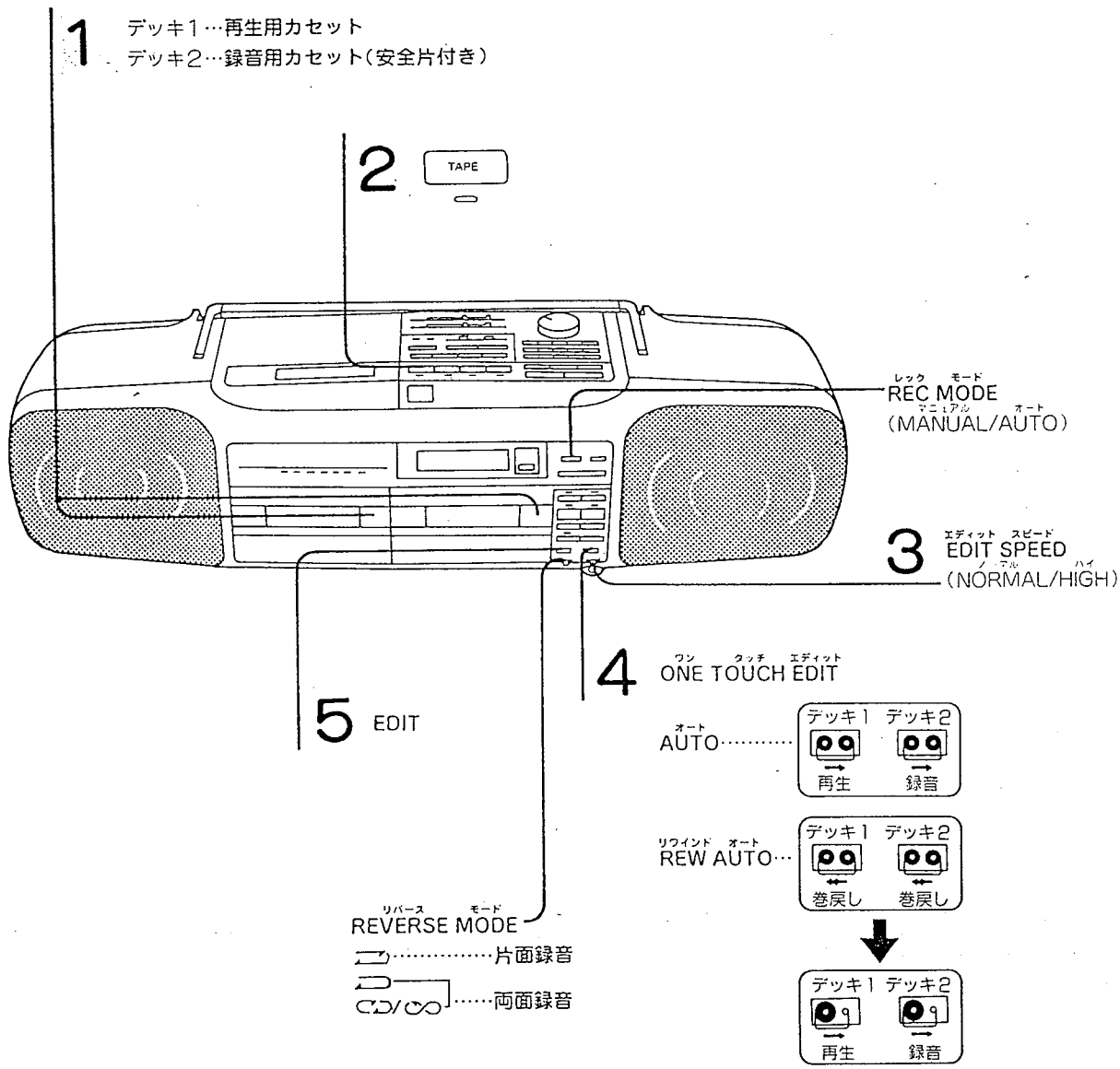
モニタとは、録音している音を同時にスピーカやヘッドホンで聞くことです。
VOLUME(ボリューム)つまみで適当な音量に調整してください。

テープ編集する

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

本機の編集のしかたは、オート編集とリワインドオート編集があります。

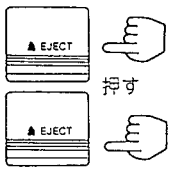
- **オート編集**……録音用・再生用のどちらのテープも巻始めになっている、または、両方が巻始めになっていないが、その位置から自動編集したいときにおすすめします。
- **リワインドオート編集**…録音用・再生用のどちらも巻始めになっていないテープを巻始めから自動編集したいときにおすすめします。

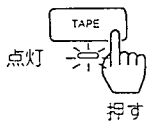


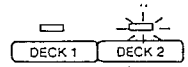
ご注意

- 長時間編集するときは、途中で消耗するおそれのある乾電池より、家庭用電源をご使用ください。
- テープ編集中はSELECTORキーを切換えないでください。テープ編集が止まります。
- テープ編集中は、編集速度を切換えないでください。
- テープ編集中、本機とテレビを近づけると、テレビから出る電波の影響でノイズ(雑音)が録音されることがあります。本機とテレビの距離を約1.5m程度離してご使用ください。

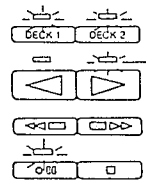
テープ編集する







	手順	インジケータ
1	デッキ1に再生用カセット、デッキ2に録音用カセット(安全片付き)を入れます。	
2	"TAPE"にします。	後からカセットを入れた側のデッキインジケータが点灯します。
3	編集速度を選びます。 NORMAL …通常の速度 HIGH ……通常の約1.7倍の速度	
4	編集モードを選びます。 AUTO……オート編集 REW AUTO …リワインドオート編集	
5	EDIT(編集)キーを押します。 ●テープ編集が始まります。	デッキ2(録音側)の走行方向表示です。 各インジケータが点灯します。



●編集を止めるときは □ キーを押します。
(停止)

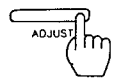
●テープがどちらかの終端でオートストップすると、同時にもう一方もオートストップします。(シンクロストップ)

現在時刻を合わす

例：午後9:30分に合わすとき

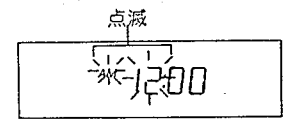
手順　　マルチディスプレイ

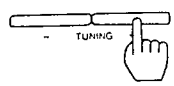
まず"時間"を合わせます



押す

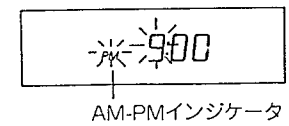
①ADJUST（アジャスト）キーを押します。
- "時間"表示が点滅します。



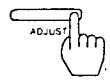


押す

②時刻調整キー("＋"または"－")を押して"時間"を合わせます。
- AM(午前)とPM(午後)を間違えないようにしてください。



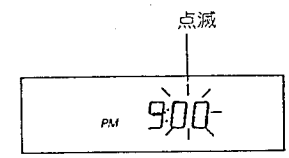
AM-PMインジケータ



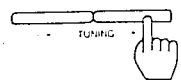
押す

1

③ADJUST（アジャスト）キーを押します。
- "時間"表示の点滅が止まり、"分"表示が点滅します。

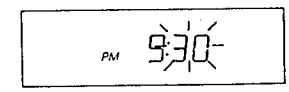


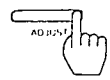
次に"分"を合わせます



押す

①時刻調整キー("＋"または"－")を押して"分"表示を合わせます。

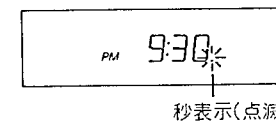




押す

2

②ADJUST（アジャスト）キーを押します。
- "分"表示の点滅が止まり、時刻合わせが終わりました。(秒表示が点滅します。)



秒表示(点滅)

- 時刻調整キーを押続けると、時間(分)表示は連続的に進みます。
- "分"表示は"59"の次に"00"に戻りますが、時間表示は繰上がりません。
- 分表示を合わせ、ADJUST（アジャスト）キーを押した時点で、0秒から時計が働きます。

便利メモ・秒の合わせかた

電話の時報サービス(117番)をご利用になると便利です。
例：午後9時30分00秒に合わすとき
1. 午後9時30分の時報の少し前に、上記1～2-①の操作を行ないます。
2. 時報と同時にADJUST（アジャスト）キーを押すと、時計は0秒から動き始めます。

- ADJUST（アジャスト）キーだけを押した場合には、時計の秒カウントは変わりません。
時報などで秒カウントを合わす場合には"時間"表示または"分"表示が点滅しているときに、必ず時刻調整キー("＋"または"－")を1回以上押してください。

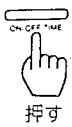
タイマー時刻をセットする

タイマーON（入）時刻…AM7:15
例：タイマーOFF(切)時刻…AM8:00

手順　　マルチディスプレイ

1

まず“ON”(タイマー入)時刻をセットします

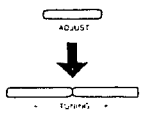


押す

①ON/OFF TIMEキーを押します。
- ON(タイマー入)インジケータが表示します。

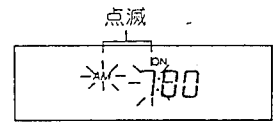
ON(タイマー入)インジケータ

- ディスプレイは約10秒後に現在時刻に戻ります。

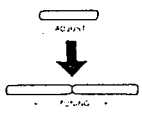


②ADJUSTキーを押し、時刻調整キー（“＋”または“－”）で“時間”を合わせます。

点滅

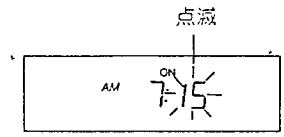


- 点滅時のディスプレイは、約20秒後に現在時刻に戻ります。



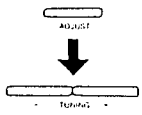
③ADJUSTキーを押し、時刻調整キーで“分”を合わせます。

点滅



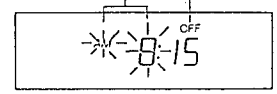
2

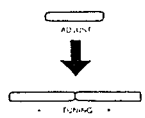
次に“OFF”(タイマー切)時刻をセットします



1 ADJUSTキーを押し、時刻調整キーで“時間”を合わせます。
- OFF(タイマー切)インジケータが表示します。

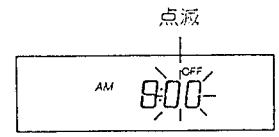
点滅　OFF(タイマー切)インジケータ



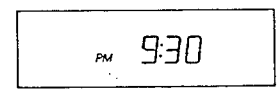


2 ADJUSTキーを押し、時刻調整キーで“分”を合わせます。

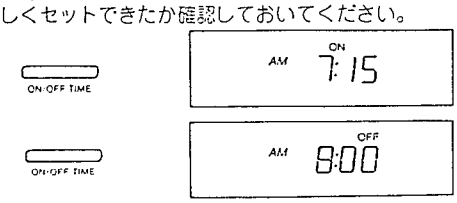
点滅



3 ADJUSTキーを押します。
- ディスプレイは現在時刻表示に戻ります。



- タイマー時刻をセットした後は、ON/OFF TIMEキーを押して、正しくセットできたか確認しておいてください。



便利メモ

タイマーON(入)時刻のみあるいはタイマーOFF(切)時刻のみの変更もできます。
- タイマーON(入)時刻のみの変更には、上記のタイマーON時刻セット操作終了後に、ON/OFF TIMEキーを2回押します。
- タイマーOFF時刻のみの変更には、ON/OFF TIMEキーを2回押して、タイマーOFF時刻を表示させ、上記のタイマーOFF時刻セットの操作を行ないます。

タイマー演奏(再生)や留守録音する

●あらかじめ現在時刻を確認してください。

例）現在時刻……PM9:30
タイマーON（入）時刻……AM7:15
タイマーOFF(切)時刻……AM8:00

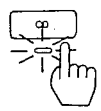
1 タイマー時刻をセットします。P35

2 聞きたい音を選びます。

3 TIMER(タイマー)キーを押します。

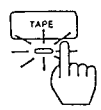
めざましとして使う

CDサウンド



オートプレイまたはプログラムプレイで演奏状態にして止めます。

テープサウンド



聞きたい曲の頭出しをして、テープを止めます。

ラジオ・TVサウンド

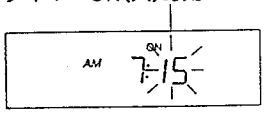
希望の放送を選局します。

タイマー録音

ラジオ・TVサウンド

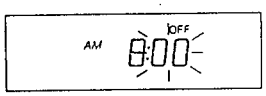
録音用カセットをデッキ2に入れ、希望放送を選局します。

タイマーON(入)時刻

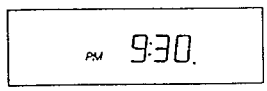


↓

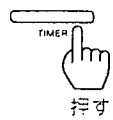
タイマーOFF(切)時刻



↓

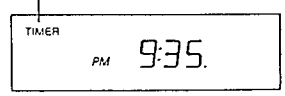


（現在時刻）



●電源が切れます。

TIMER(タイマー)インジケータ

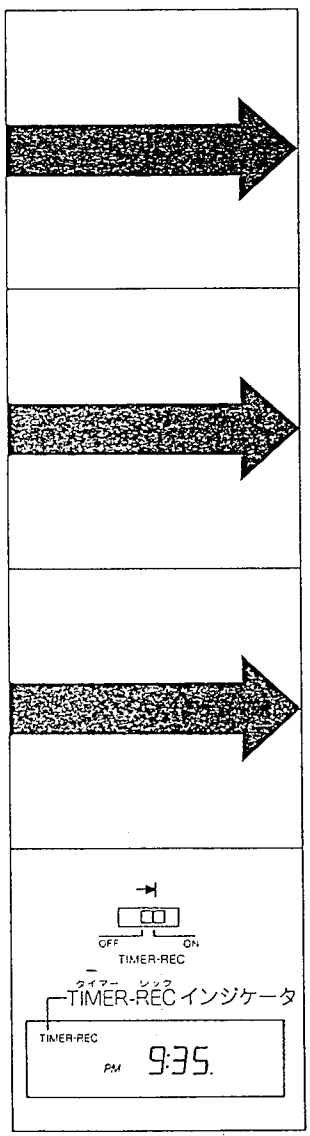


便利メモ

●タイマーON(入)時刻とタイマーOFF(切)時刻とを一致させてタイマーを動作させるとONタイマーとして働きます。
（タイマーON時刻からずっと電源が入ったままになります。）

●テープのタイマー再生はデッキ1 2のどちらでもできます。
デッキ2のタイマー再生…両方のデッキまたはデッキ2にカセットを入れる。
デッキ1のタイマー再生…デッキ1のみにカセットを入れる。

4 TIMER-REC(タイマー レック) スイッチ



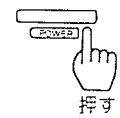
タイマー操作のセットは完了しました。

(引続き動作させたいときには、SLEEP(スリープ)キーを押してスリープ状態でお楽しみください。P 39)

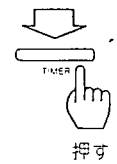
タイマー"ON"(入)時刻に、タイマー動作が始まります。　途中で止める。

(点滅)
TIMER 1 0:01

1曲目から、または希望の曲から演奏が始まります。



●電源が切れます。



(点滅)
TIMER AM 7:15.

頭出しをした曲の再生が始まります。

●タイマーが解除されます。

(点滅)
TIMER FM 85.1

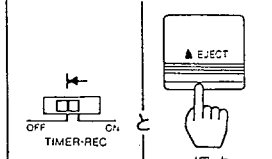
ラジオ・テレビ放送を受信します。

OFF(切)時刻になると電源が切れます。

(点滅)
TIMER-REC FM 85.1

ラジオ・テレビ放送の録音が始まります。

タイマー録音が終われば



カセットを取出しておく。

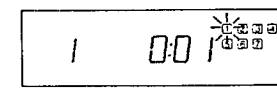
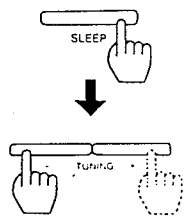
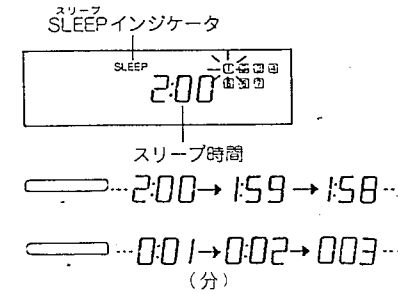
ご注意

●タイマーセット状態(TIMER(タイマー)インジケータが表示)では、POWER(パワー)スイッチは働きません。電源を入れるときは、TIMER(タイマー)キーを押し、タイマーセット状態を解除した後に行なってください。

●タイマー録音が終われば、必ずTIMER(タイマー) REC(レック)スイッチを"OFF(オフ)"にし、カセットを取出しておいてください。

おやすみになりながら聞く（スリープ操作）

1～120分（2時間）の間で希望の時間だけ、CDやラジオ / テレビ放送・テープの音などを聞くことができ、おやすみになりながらお使いになると大変便利です。

手順		ディスプレイ
1	聞きたい音を選びます。 （例）CD演奏状態にします。	
2	 SLEEP（スリープ）キーを押し、ディスプレイにスリープ時間が表示されている間（約5秒間）に、時刻 / スリープ時間調整キーを押します。 ●希望の時間を表示したら指を離します。	

- 途中で止めるときは、POWERスイッチを押します。
- セットした時間に電源が切れます。
- スリープ動作中、スリープの残り時間を確かめるときは、SLEEP（スリープ）キーだけを押します。
- **スリープの残り時間を変えるには**
  スリープ残り時間の確認操作のとき、スリープ時間が表示されている間に、時刻 / スリープ時間調整キーを押します。ただし、この残り時間はメモリーされません。
  再度スリープ操作をするときは、最初にセットしたスリープ時間が表示されます。

便利メモ

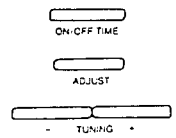
上記"2"の操作で一度セットしたスリープ時間はメモリーされます。再度同じスリープ時間でお使いになるときは、SLEEP（スリープ）キーだけを押してください。

“スリープ”と“めざまし”で好みのサウンドソースを使う

〔例〕おやすみになりながらラジオ/TVサウンドを聞き、翌朝CDサウンドでめざめる

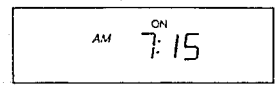
手順　　ディスプレイ

1

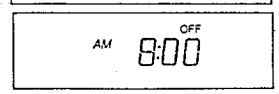


タイマーON(入)、OFF(切)時刻をセットします。P35

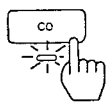
ON(入)



OFF(切)



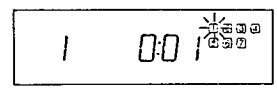
2



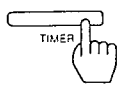
押す

CDを演奏状態にします。

●お好みの曲を予約しておくこともできます。



3

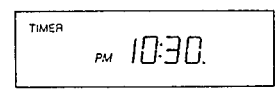


押す

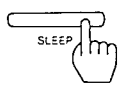
TIMERキーを押します。

●めざましのモードがセットされ、電源が切れます。

●ディスプレイは時計表示に戻ります。



4

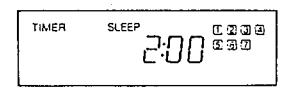


押す

SLEEPキーを押します。

●電源が入ります。

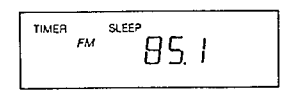
●ディスプレイはスリープ時間を5秒間表示します。

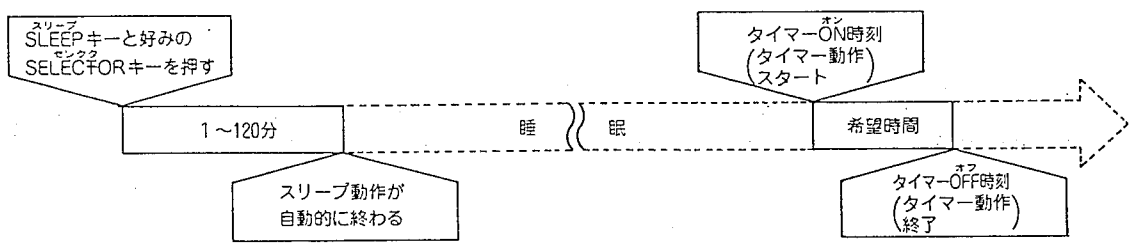


5

押す

ラジオ/TVサウンド受信状態にします。



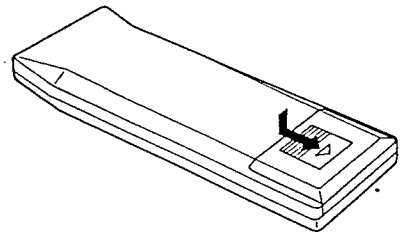


リモコン操作をする

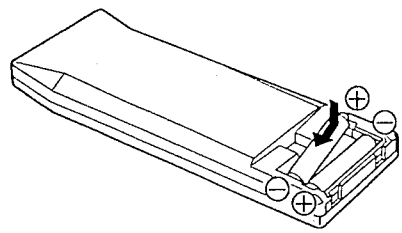
リモコン用乾電池の入れかた

（付属単四形乾電池）

1 乾電池ケースふたを開けます。



2 付属の乾電池を入れます。
使用乾電池：単四形乾電池
〔R03(UM4)〕2個



極性(⊕⊖)を間違えないように入れる。

●乾電池の取出しかた
⊖側に押付けながら取出します。

操作のしかた

リモコンでは次の操作ができます。
操作方法は本体の操作と同じです。

■SELECTOR(動作切換)
テープ・ラジオ・CDの切換え

■CD
オートプレイ、プログラムプレイ、予約の取消し、頭出し、一時停止/エディットポーズ、停止

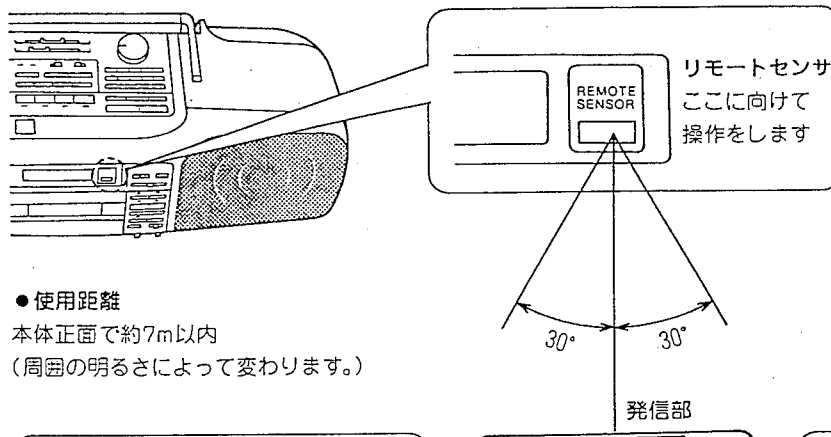
■TUNER/BAND
プログラム選局

■TAPE
デッキ1・2の切換え、再生、TPS/早巻、録音、停止

■VOLUME(音量調整)
＋…音量が大きくなります。
－…音量が小さくなります。

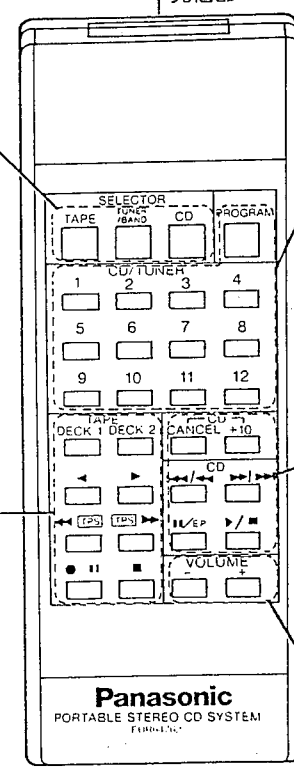
ご注意

- リモートセンサに強い光(直射日光、高周波点灯の蛍光灯など)をあてないでください。
- リモートセンサが見える正面の位置で操作してください。
- 他の機器のリモコンと同時に使用しないでください。
- AM放送受信時、本体に近づけて発信するとノイズがでることがあります。そのときは、ノイズのでない距離まで離してお使いください。
- 電源の「入」「切」はリモコンではできません。本体のPOWERスイッチで行なってください。
- リモコンを分解したり、内部に触れないでください。
- リモコンに重いものをのせたり、直射日光のあたるところ、暑いところに放置しないでください。
- リモコンに飲物類など液状のものがかかったりすると、故障の原因になりますのでご注意ください。



●使用距離
本体正面で約7m以内
(周囲の明るさによって変わります。)

発信部



動作切換

テープ
TAPE ボタン
チューナ バンド
TUNER/BAND(チューナ/バンド)ボタン
CD ボタン

CD/チューナ共通部

プログラム
PROGRAM ボタン
数字(1~12)ボタン
・CD時：ダイレクト選曲ボタン
・チューナ時：プログラム選局ボタン

テープ

デッキ
DECK 1 ボタン
デッキ
DECK 2 ボタン
◀(反転再生)ボタン
▶(正転再生)ボタン
◀◀ TPS (早巻/TPS)ボタン
TPS ▶▶ (TPS/早巻)ボタン
●II(録音ポーズ)ボタン
■(停止)ボタン

CD

キャンセル
CANCEL(予約取消し)ボタン
+10ボタン
|◀◀/◀◀ (頭出し/早聞き)ボタン
▶▶/▶▶| (頭出し/早聞き)ボタン
エディットポーズ
II/ E.P (一時停止/エディットポーズ)ボタン
▶/■(演奏/停止)ボタン

音量調整

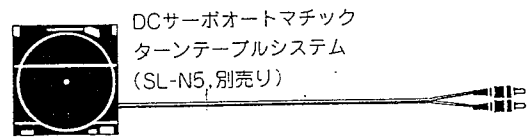
ボリューム
VOLUME(音量調整)ボタン

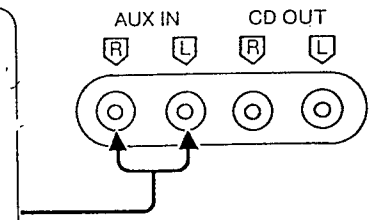
外部機器を使って

接続する前に、各機器の電源は必ず切っておいてください。

●SELECTOR(セレクタ)キー…… AUX 押す

レコードプレーヤの音を聞く/録音

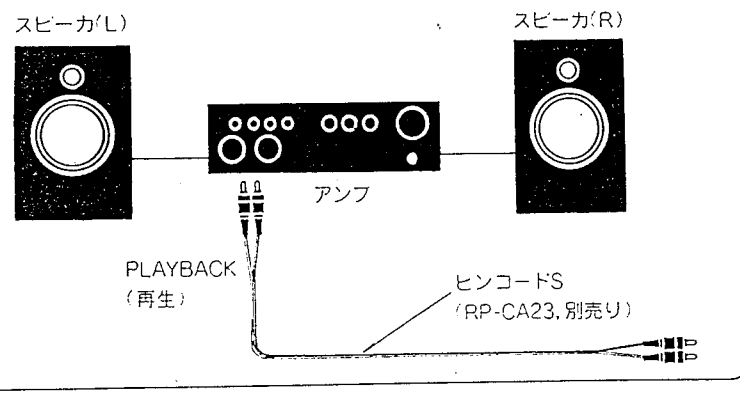


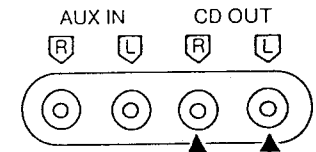


AUX IN(オークス イン)(外部入力)ジャックへ

●SELECTOR(セレクタ)キー…… CD 押す

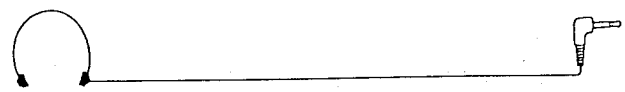
CDの音をステレオセットを使って聞く

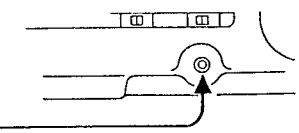




CD OUT(アウト)(CD出力)ジャックへ

ヘッドホンで聞く





PHONES(ホーンズ)(ヘッドホン)ジャックへ

ご注意

ヘッドホンでお聞きになるときは、耳を刺激するような大きな音量で、長時間お聞きになることは避けてください。

〈その他の別売りアクセサリ〉

- FMワイヤレスマイクロホン……(RD-68)
- エコー付FMワイヤレスマイクロホン……(RD-140)
- ヘッドクリーニングキット……(RP-919)

コンパクトディスクについて

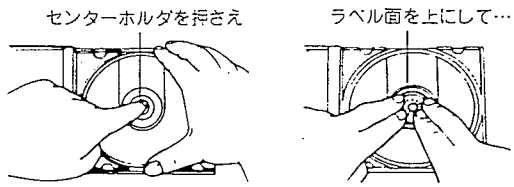
コンパクトディスクの演奏面汚れ、ごみ、傷、そりなどが雑音や動作不良の原因になることがあります。
次のことにご注意ください。

コンパクトディスクは

COMPACT disc DIGITAL AUDIO のマークが入ったものをご使用ください。

取扱上のご注意

●ケースからの出し入れ



演奏面に触れないように持って出す。　上から押さえて入れる。

●演奏面(虹色に光っている面)に触れないように持つ。
●ラベル面に紙を貼ったり字を書いたりしない。
●ディスクは曲げないでください。

保管上のご注意

●必ず専用ケースに入れて保管してください。
●直射日光の当る所、暖房器具の近くなど温度が高くなる所には置かないでください。

ディスクのお手入れ

演奏する前に、演奏面についたほこりやゴミ、指紋などを柔らかい布でふきとってください。
ディスクは必ず矢印方向にふいてください。

必ず内側から外側へ

●シンナーやベンジン、アナログレコード用のクリーナーやスプレー静電防止剤は絶対に使用しないでください。

操作上のご注意

●ディスクホルダは必ず閉じておいてください。
ディスクホルダの奥に精密レンズが内蔵されています。特にこの部分にほこりが付かないように、ディスクホルダは必ず閉じておいてください。内部に手を入れないでください。
●操作中に本機に衝撃を与えますと、音とびが起こりますのでご注意ください。
●外部振動の影響を受けないしっかりした水平な場所に設置してください。
●持ち運び、保管の際は、強いショックを与えないように、ていねいに取扱ってください。

保管するとき、再輸送のときは、必ずディスクを取出しておいてください。

●本機の天面と後面は放熱のため熱くなりますが、異常ではありません。
●通風孔はふさがないでください。
●本機の上には重いものを置かないでください。
●音量は、必ず絞っておいてください。

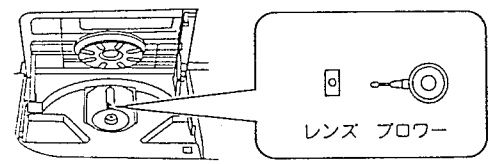
コンパクトディスクは、アナログレコードに比べ非常にノイズが少なく、ダイナミックレンジも広くなっています。
従来のようにノイズを聞きながら音量を調整しようとすると、思わぬ大音量になることがあります。

●本機のディスプレイパネルに表示される時間と、コンパクトディスクに付属の解説書(ライナーノート Liner Note)に記載された時間とは数秒の差が出る場合があります。

解説書には、ディスクに記録された演奏時間のみが表示されていますが、本機は曲間を含めた全時間を表示するようになっていますので、曲間の時間差が生じます。

ディスク部のクリーニング

●レンズの汚れは
音とびなど演奏ができなくなる原因になります。レンズのほこりなどは、下図のようにクリーニングしてください。
●万一指紋などがついた場合、綿棒で軽くふいてください。
※別売りレンズクリーナキット(ブロワー、綿棒、クリーナ液のセット)をおすすめします。(品番：SZZP1038C)



露(つゆ)付き現象について

寒い冬、暖房のきいた部屋の窓ガラスに水滴が付きますが、この現象を露付きといいます。
本機はレンズを内蔵していますから、次のような場合にレンズに露付きが起こることがあります。

●暖房をはじめた直後の部屋
●湯気が立ちこめるなど、湿気の多い部屋
●冷たいところから、急に暖かいところに持ち込んだとき

このような場合、曲目の読取りができず、プレーヤが正しく動作しないことがあります。
電源を入れ、約1時間待ってからご使用ください。

カセットテープについて

●C-120テープはできるだけ使わないで！
C-120テープは伸びたり、機械に巻込まれたりしやすいので、長時間の録音時以外は、できるだけ使用しないでください。

録音した音を消す

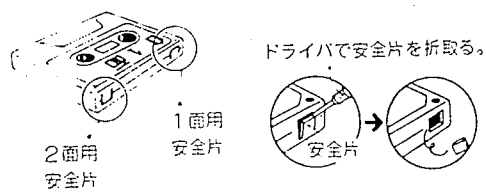
●新しく録音するとテープに録音されている音は自動的に消され、新しい録音のみが残ります。
●録音せずにテープに録音されている音を消したいときは、下記の操作を番号順に行なってください。

1 SELECTOR(セレクタ)キーを"TAPE(テープ)"にします。

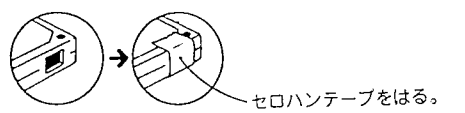
2 録音する要領でテープを走らせてください。
（音が消えます。）

大切な録音を誤って消さないために

安全片を折取って、大切な録音をお守りください。



安全片を折取ると[録音ポーズ]キーを押しても、折取った面のインジケータ(1または2)が点滅せず、録音できません。
●再び録音したいとき



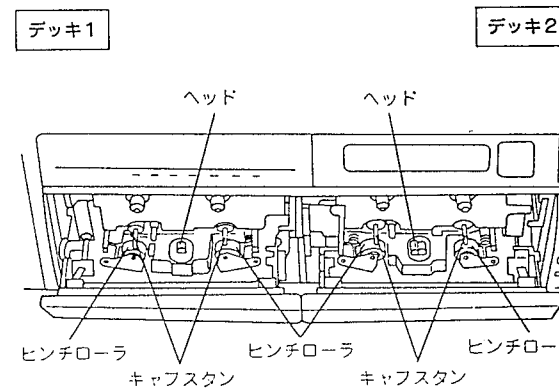
お手入れのしかた

ヘッド部のクリーニング
（約10時間使用ごと）

録音・再生ヘッドやピンチローラは、性能を維持するためにいつもきれいにするように心がけてください。

1 EJECT(イジェクト)ボタンを押して、カセットふたを開けます。

2 綿棒かヘッドクリーニングキット(RP-919, 別売り)でクリーニングをしてください。



キャビネットのクリーニング

乾いた布でふいてください。汚れがひどいときは水で布をしめらすか、石けん水を少し布につけ、よくしぼってふき、あとはからぶきしてください。
●本機には絶対に注油しないでください。注油しますと故障の原因になることがあります。
●ヘッドにドライバなどの鉄類や磁気を帯びたものを近づけないでください。性能が悪くなります。
●ピンチローラやキャプスタンをふくときは、綿棒などを巻込まないようにご注意ください。
●ベンジンやアルコール、シンナーなどの溶剤でふいたり、殺虫剤をかけたりしないでください。
●化学ぞうきんでこすったり、長時間接触させたままにしておきますと、変質する場合がありますので、使用しないでください。

電源の注意

家庭用電源で使用するとき

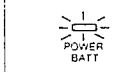
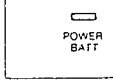
- 長期間使用しないときは、POWER(パワー)スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いてください。
  （POWER(パワー)スイッチで電源を切っただけでは、約2.1Wの電力を消費しております。）
- この場合プログラムメモリーが消えます。
  再び使用するときは、もう一度プログラムメモリーをしてください。
  コンピューター/クロック用乾電池(別売り単三形4個)を入れておくと、プログラムメモリーを保持します。
- 電源コードを使用しないときは、必ずコンセントとAC INジャックから抜いておいてください。
- 乾電池電源に切換えるときは、必ず電源コードの本機側のプラグをはずしてください。
- 使用後は、必ずPOWER(パワー)スイッチを切ってください。

乾電池で使用するとき

■乾電池の取替時期

乾電池の消耗度は、POWER(パワー)/BATT(バッテリ)チェックインジケータの点灯状態でわかります。ご希望の操作状態にして確認してください。大切な録音をするときには、全部新しい乾電池に交換することをおすすめします。

- 長時間続けて使用するより、1～2時間使用したのち、電源を切って、しばらく間をおきますと乾電池の寿命を延ばすことができます。

	明るく点灯している 乾電池は正常ですからそのまま使えます。
	消えている(点灯しているが暗い) 乾電池は消耗していますから全部新しい乾電池と交換してください。

■乾電池使用上のご注意

- 長期間使用しないときや、いつも家庭用電源で使用するときは、乾電池の漏液による損傷を防ぐため、乾電池を取出しておいてください。

乾電池は使いかたを誤ると破裂や破損、液もれのおそれがあります。次のことは必ずお守りください。

- 新しい乾電池と使用した乾電池は混用しないでください。
- 乾電池は充電式ではありません。
- ⊕プラスと⊖マイナスは正しく入れてください。
- 同じ種類の乾電池を使用してください。
- 火の中への投入や、ショート(短絡)、分解、加熱などしないでください。
- 使用しないときは電源を確実に切ってください。

コンピューター/クロック用乾電池

- コンピューター/クロック用乾電池の取替え時期は、別売り単三形乾電池「ナショナルR6P」使用の場合は約1年間です。
- コンピューター/クロック用乾電池を取替えるときは、プログラム保持のために、必ず単一形乾電池(1.0個)を入れておくか、電源コードを接続しておいてください。

リモコン用乾電池

- リモコン用乾電池の取替え時期は、リモコンの使用回数で異なりますが、付属の単四形乾電池「ナショナルR03」使用の場合は約1年間です。
  （1年経過していない場合でも、リモコンを本機の近くで操作しても動作しないときは、新しい乾電池と取替えてください。
  ナショナルマンガン乾電池 R03 をおすすめします。）

著作権について

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

- 放送やレコード、その他の録音物「ミュージックテープ、カラオケテープなど」の音楽作品は、音楽の歌詞、楽曲などと同じく著作権法により保護されています。
  従って、それらから録音したテープを、売ったり、配ったり、譲ったり、貸したりする場合、および営利（店のBGMなど）のために使用する場合には、著作権法上、権利者の許諾が必要です。
- 使用条件は、場合によって異なりますので、詳しい内容や申請その他の手続きについては、「日本音楽著作権協会」(JASRAC)の本部または最寄の支部におたずねください。

日本音楽著作権協会

本部・関東支部	TEL 03 (502)6551
北海道支部	TEL 011(221)5088
東北支部	TEL 022(264)2266
静岡支部	TEL 0542(54)2621
中部支部	TEL 052(586)1155
北陸支部	TEL 0762(21)3602
関西支部	TEL 06 (244)0351
中国支部	TEL 082(249)6362
四国支部	TEL 0878(33)0362
九州支部	TEL 092(441)2285

安全使用のために

家庭用電源で使うときは、必ずＡＣ(交流) 100Ｖでお使いください。

電源プラグの抜差しは

- 必ず電源プラグを持って行なってください。
- また、ぬれた手で抜差ししますと、感電するおそれがあり、非常に危険です。

電源コードにも注意

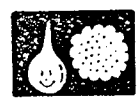
(火災や感電事故防止のために)

- 電源コードの傷、断線、プラグの接触不良にお気付きのときは、使用を中止し早めにお求めの販売店にご相談ください。
- 無理に折曲げたり、引張ったり、ねじったり、巻きたすなどの加工は絶対にしないでください。

本機内部には絶対に触れないでください。

- 改造したり、不用意に内部を触ると、感電や故障の原因になります。
- 内部に金属類(針、ヘアピンなど)を差込むと感電や故障の原因になります。

風呂場など湿気の多い所やほこりの多い所では使用しないでください。



本機に水がかかったとき

ただちに使用を中止して、お求めの販売店にご相談ください。
そのまま使用すると火災や感電のおそれがあり、大変危険です。

高温になる所に放置しないでください。

夏季の閉めきった自動車内(100℃にも達することがある)や、長時間直射日光の当たる所、暖房器などの近くで使用したり、放置しないでください。
60℃以上の高温になると、キャビネットが変形・変色したり、故障することがあります。

落雷にご注意

野原などで落雷の危険性があるときは、アンテナをたたんで使用を中止してください。

アフターサービス

保証書(別に添付してあります)

保証書は必ず「販売店名・購入日」等の記入を確かめて販売店から受取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間―ご購入日から１年間

修理を依頼されるとき

"故障!?と思う前に"の項に従って調べていただき、直らないときには、次の処置をしてください。

●保証期間中は

おそれ入りますが、製品に保証書を添えて、お求めの販売店までご持参ください。保証書の規定に従って販売店で修理させていただきます。

●保証期間が過ぎているときは

お求めの販売店に、まずご相談ください。
修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

補修用性能部品の最低保有期間

本機の補修用性能部品(機能維持のために必要な部品)の最低保有期間は、製造打切後６年です。
この期間は通商産業省の指導によるものです。

アフターサービス等について、おわかりにならないとき

お求めの販売店または最寄りの「ご相談窓口」(別紙ご参照)にお問合わせください。

故障!?と思う前に

修理を依頼する前に、もう一度次のことを確認したのち、それでもなお異常の場合には、購入店へご相談ください。

!?CDやテープが走行しない。(回転しない。)	●乾電池(単一形)が正しく入っていますか? ●乾電池が消耗していませんか? ●乾電池の電源に切換えるとき電源コードのプラグを本体から抜いていますか? ●電源コードのプラグを正しく接続していますか?
!?ディスクは装着されるがディスプレイパネルに総曲数、総演奏時間表示が出ない。	●ディスクを表裏逆に入れていませんか? ●ディスクが汚れていませんか? ●ディスクに傷や反りがありませんか? ●規格外のディスクを使用していませんか? ●露がついていませんか?
!?特定の箇所が正常に演奏できない。	●ディスクが汚れていませんか? ●ディスクが傷ついていませんか?
!?早送り・巻戻しが遅い。(回転ムラ)	●乾電池が消耗していませんか? ●カセットテープの回転が重くありませんか?
!?再生音が小さい、録音・再生音が割れる。高音が出ない。	●乾電池が消耗していませんか? ●ヘッド部が汚れていませんか?
!?録音ができない。	●カセットが入っていますか? ●カセットの安全片がついていますか?
!?CD、ラジオ、テープ共に動作しない。	●TIMERキーが押されていませんか(ディスプレイにTIMERインジケータが表示されていませんか)?
!?テープ編集できない。	●SELECTORキーが"TAPE"になっていますか?
!?リモコンで操作しても正常に動作しない。	●乾電池(単四形)が正しく入っていますか? ●乾電池が消耗していませんか? ●ディスクやカセットが正しく入っていますか? ●距離が離れすぎていませんか? ●リモコンの送信部を本体(リモートセンサ)の正面に向けていますか?

●本機を他のラジオやテレビなどの電気機器の近くで使用すると、互いに干渉しあって雑音が入ることがあります。

●本機を0℃前後から暖かい場所へ急に移したとき、正常に動作しないことがあります。これは、本機の動作部に露が発生したためで、60分程で正常に戻ります。

定　格

〈ラジオ部〉
受信周波数：TV；1～62ch
FM；76.0～90.0MHz
AM；522～1629kHz

〈コンパクトディスクプレーヤ部〉
標本化周波数：44.1kHz
復　号　化：16ビット直線
光　　源：半導体レーザ(波長780nm)
オーディオチャンネル数：2チャンネルステレオ
周波数特性：20-20000Hz(+1/−2dB)
ワウ・フラッタ：測定限界以下

〈テープレコーダ部〉
トラック方式：ステレオ
録音方式：交流バイアス
消去方式：交流消去
モニタ方式：バリアブルサウンドモニタ
周波数範囲：ノーマルテープ；40～16000Hz(EIAJ)
クロームテープ；40～18000Hz(EIAJ)

〈コンピューター/クロック部〉
電　　源：乾電池；DC6V(単三形乾電池4個)
時間精度：月差約±30秒(25℃)
電池持続時間：約1年間
(別売り乾電池
ナショナルネオハイトップR6P使用時)

〈共通部〉
スピーカ：12cm丸形2.7Ω 2個
入力端子：AUX；200mV(47kΩ)
出力端子：ヘッドホン；32Ω(8-50Ω)
CD；0.9Vrms(EIAJ)
実用最大出力：7.5W+7.5W(EIAJ)
(DC時)
電池持続時間：〈ラジオカセット部〉
約6.5時間(EIAJ録音時)
約4時間(EIAJ音楽再生時
Vol. 9程度)
〈CD部〉
約3時間(CD連続演奏時)
(別売り乾電池
ナショナルネオハイトップR20P使用時)
電　　源：AC；100V,50/60Hz(付属電源コード使用)
乾電池；DC15V(単一形乾電池10個)
消費電力：AC26W
最大外形寸法：700(W)×191(H)×224(D)mm(EIAJ)
重　　量：約7.4kg(乾電池なし)
約8.4kg(乾電池を含む)

〈リモコン〉
電　　源：乾電池；DC3V(単四形乾電池2個)
電池持続時間：約1年間
〔付属乾電池R03使用時〕
最大外形寸法：61(W)×165(H)×20(D)mm(EIAJ)
重　　量：約104g(乾電池を含む)

付　属　品：電源コード……1
乾電池(単四形)……2
リモコン……1

★この定格は性能向上のため変更することがあります。

POWER(パワー)スイッチ「切」時の消費電力…2.1W(ACのとき)

便利メモ

(おぼえのために、記入されると便利です。)

ご購入年月日	年　月　日	品番	RX-DT70
ご購入店	電話(　　)　－		
最寄りのご相談窓口	電話(　　)　－		

松下電器産業株式会社　オーディオ事業部
〒571 大阪府門真市松生町1番4号 ☎(06)909-1021

RQF2861ZA　F0888A0